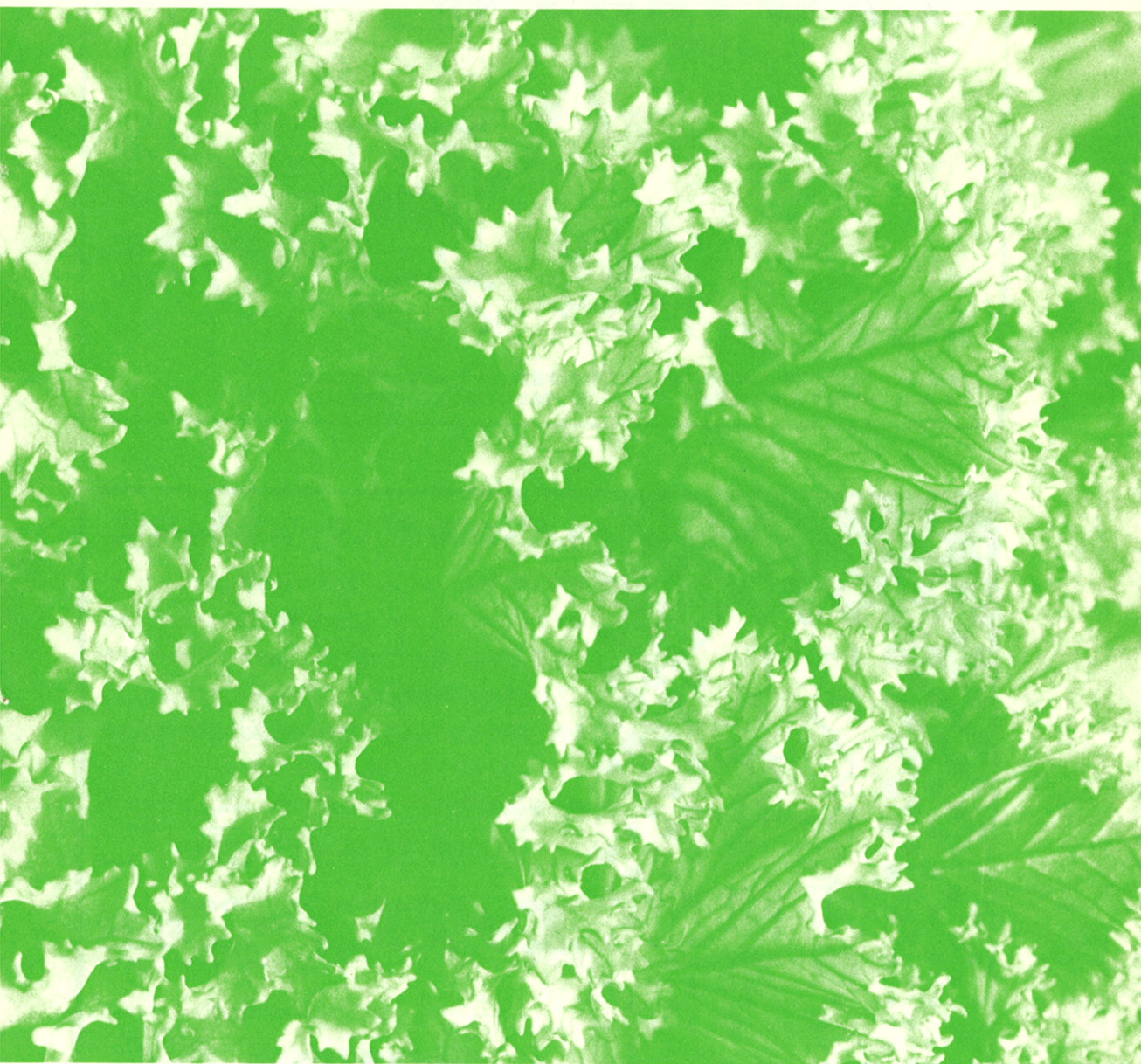


植調

第16卷第12号



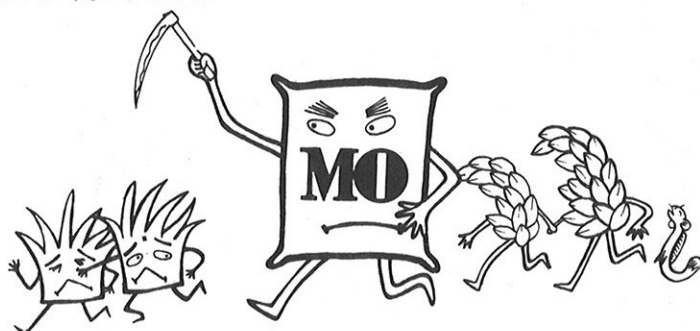
財団法人 日本植物調節剤研究協会編

安全でよく効く!

——水田除草剤——

MO粒剤-9

(CNP除草剤)



MO普及会

取扱会社 クミアイ化学、三共、北興化学、八洲化学、日本農薬、サンケイ化学、三井東圧農薬
事務局 東京都千代田区霞が関3-2-5 (霞が関ビル) 三井東圧化学株式会社内

じっくり、
抑草。
しっかり、
除草。

水田“初期除草”に長〜い効果を発揮。

- 効きめが長く、すばらしい殺草力を発揮します。
- ノビエ、カヤツリグサ、1年生広葉雑草からマツバイまで広範な雑草に有効で、ウリカワ、ホタルイ、クログワイなどにも初期抑草効果の高いことが認められています。
- 抑草期間を長く要求される機械移植栽培において大きな力となり、しかもイネに対して安全です。
- 人畜毒性、魚毒性ともきわめて低く、安心して使えます。

代かき後7日以内に使用ください!

エックスゴーニ®粒剤

®は日本農薬と石原産業の共有登録商標

エックスゴーニ協議会



日本農薬株式会社
〒103 東京都中央区日本橋1-2-5



石原産業株式会社
〒102 東京都千代田区富士見2-10-30



本剤のシンボルマークです。

中間現地検討会の果たす役割

植調東北支部の事務局が東北農試にあった当時から「東北地域の水稲除草剤中間現地検討会」を毎年1回、6月に実施してきた。もう20年以上も続いている。さらに、昭和54年から畑作関係についても、水稲と別個に開催している。いまでは、参加者が水稲関係100名余、畑作関係は70名台になり、毎年減ることがなく、バスにより1泊2日の日程で実施している。

さて、このように長く続けているとマンネリ化するのではないかと、出席者の意向をたしかめてみると、おおよそ二つに集約される。それは、はっきりした効果として表現しにくい、一つは、農試や実験展示圃の現場を通じて、秋の成績検討会までの中間段階での経過を知るとともに、お互いの情報交換ができることである。二つは、開発・試験研究・普及のそれぞれの立場からみて、自分のやっていることに対する確認とともに、現在の技術・農薬の水準、方向を知ることができる等である。その他、他地域における優占雑草や新雑草の生態の確認などがあげられる。また、共通の連帯意識が生まれ育つともいう。このような話しは、主催者に対する激励の意味も含めてのことだろうが、勇気づけられるものがある。

この中間現地検討会は、東北支部とすれば年間行事のうちでは大きいものであり、出席者の反応に支えられるとともに、開催地の絶大な協力を得て、ことしもこれを実施しようと心を新たにしている。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 東北支部長 藤巻 竹千代〕

目 次 (第16巻第12号)

東北地方における冷害時の除草剤使用について……………	2
＜宮城県古川農業試験場 高橋周寿＞	
は じ め に……………	2
1. 東北における55、56年の冷害…………	2
1) 冷害、冷害型について…………	2
2) 気象の変化と稲生育…………	3
2. 東北地方における主要雑草…………	4
3. 東北における冷害年(55、56年)の除草剤利用状況…………	4
1) 水田除草剤の普及率…………	4
2) 除草剤別利用状況…………	5
3) 冷害年の雑草発生产長と除草効果…………	5
む す び……………	8

昭和57年度水稲作関係除草剤試験成績概要……………	8
---------------------------	---

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	
第1表 適1試験成績判定結果一覧表……………	9
第2表 適2試験結果判定一覧表……………	11
第3表 適2使用基準一覧表……………	13

新登録除草剤一覧……………	35
---------------	----

新登録生育調節剤一覧……………	36
-----------------	----

＜農林水産省農蚕園芸局植物防疫課＞	
-------------------	--

本誌掲載原稿の募集

本誌を愛読されている皆様より、原稿を募集しておりますので、ご寄稿下さい。内容は、除草剤、生育調節剤に関する記事であればよく、400字詰原稿用紙で20～30枚位、図・写真の挿入も可。原稿料は、当協会の規程によりお支払いいたします。

東北地方における 冷害時の除草剤使用について

宮城県古川農業試験場栽培部長 高橋周寿

は じ め に

昭和49年度に気象庁から出された異常気象についての報告書によると、今後十数年は高緯度地方の寒冷化にともなって中緯度地方では、低・高温、少雨、多雨といった地域的コントラストの強い天候が続くであろうと予測している。事実これを裏付けるかのように、東北では最近異常気象が頻発している。

一方、東北の稲作の現状をみると、ここ一世紀の間に10アール当り収量は約3倍と飛躍的に増加し、反面、10アール当りの労働時間は約3分の1に減少している。すなわち、多労少収から省力多収へと見事な転身をしたわけであるが、これらは、品種、育苗法、施肥、病害虫の徹底防除、除草剤の開発利用そして機械化一貫作業体系の確立など諸技術の有機的な組合せによるものであり、中でも除草剤利用による雑草防除技術の確立が果たした役割は極めて大きいものがある。このように、現在の稲作において、不可欠となった除草剤も、最近の異常気象の条件下では安全利用の点などからいろいろ問題が提起されているので、東北における冷害年の除草剤利用の実態をのべ、異常気象下でのより安全な使用法について、諸賢のご指導を心から願うものである。

1. 東北における 55, 56 年の冷害

冷害年と除草剤利用の実態にふれる前に、東北の55, 56年の冷害について簡単に述べる。

1) 冷夏、冷害型について

水稻の冷害は、生育期間中の異常低温による被害であるが、稲の生育ステージと低温の遭遇する時期および低温の程度で、稲の被害様相と程度が変わってくる。東北地方の冷害は、気象的にみた場合、第1種型冷害と第2種型冷害に分けられる。第1種型冷害は、オホーツク海高気圧の発達と、梅雨前線の停滞または活発化によって、冷涼・多湿の偏東風（ヤマセ）が吹き込み、低温寡照の不順天候が続く、稲に被害をもたらすもので、東北地方の太平洋側が中心となる。第2種型冷害は、太平洋高気圧の勢力が弱く、シベリヤ大陸の高気圧から寒気が南下することによるもので、北海道や北東北が冷害の中心となることが多い。この冷害気象の出現時期によって、遅延型と障害型冷害に分けられる。

障害型冷害は、稲の生殖成長期から開花期にかけての低温により、花粉形成障害による不稔粒（アンドン穂）の発生とか、穂の抽出不良または開花障害による不稔粒の増加で減収をもたらす。一方、遅延型冷害は、低温の中心が稲の栄養生長期の間であるが、田植直後から低温が続けば稲の活着と初期生育がおくれ、出穂もおくれて登熟期間が秋冷に見舞われやすくなるため、粒の発育不良や発育停止粒の増加で青

第1表 冷害年の水稲作柄、冷夏の型、冷害の型一覧表

冷 害 年	作 柄 東北平均	冷夏の型	冷害の型	宮 城 県 平均収量
1902 (明 35)	大 凶 作		混 合	110kg/a
1905 (明 38)	大 凶 作		障 害	27
1906 (明 39)	大 凶 作		障 害	151
1910 (明 43)	局部的不凶作		一部障害	112
1913 (大 2)	大 凶 作		混 合	114
1931 (昭 6)	凶 作	第 1 種	遅 延	279
1934 (昭 9)	大 凶 作	第 1 種	障 害	180
1935 (昭 10)	凶 作	第 1 種	障 害	217
1941 (昭 16)	大 凶 作	第 1 種	混 合	201
1945 (昭 20)	大 凶 作	第 1 種	遅 延	193
1953 (昭 28)	凶 作	第 1 → 2 種	障 害	304
1954 (昭 29)	局部的不凶作	第 1 種	遅 延	338
1964 (昭 39)	局部的不凶作	第 2 種	障 害	406
1966 (昭 41)	局部的不凶作	第 2 種	北部遅延	429
1971 (昭 46)	不 作	第 1 一時 2 種	障 害	453
1976 (昭 51)	凶 作	第 1 一時 2 種	混 合	433
1980 (昭 55)	凶 作	第 1 種	障 害	383

前述のように、同じ冷害年でも低

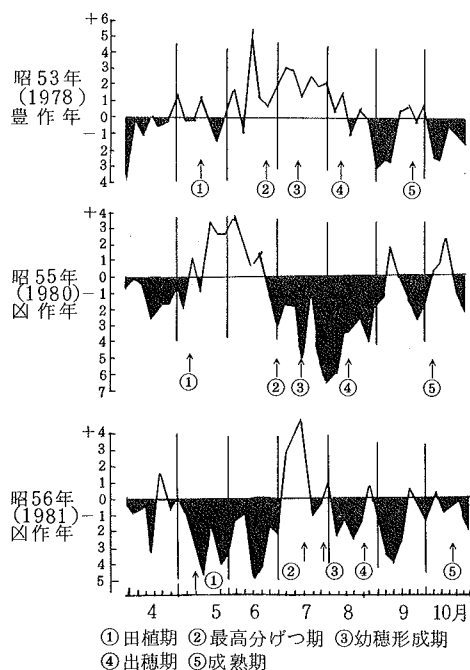
温の出現時期が異なると、自から水稲への影響も異なってくる。第1図および2図に古川での気象の変化と稲生育について示した。昭和53年は豊作年であるが、55年は第1種型冷夏による典型的な障害型冷害年である。気象経過は、5月から6月にかけてかなりの高温期間があり、7～8月に一転して異常低温に見舞われ、障害不稔と開花障害の多発で作況指数79と著しい不作となった。

56年は、第2種型冷夏と一時第1種冷夏による遅延型冷害年である。

気象経過は、田植時から6月一杯異

米や屑米が多発して減収となる。東北での冷夏および冷害型を第1表に示した。

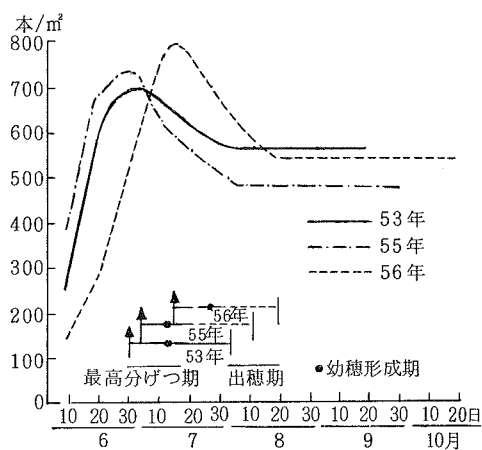
2) 気象の変化と稲生育



第1図 気象の変化とイネの生育——イナ作期間の半旬別平均気温の平年偏差(宮城県古川農試)

常低温が続く、7月は高温であったものの、出穂期となる8月から登熟期間にかけて低温が続いたため、稲生育は第2図のように初期生育が極めて悪く、生育がおくれ、登熟不良で作況指数88と55年に次いで悪く、品質も低下した。

このような気象の差異は除草剤の利用に影響する。特に注目には値するのは、同じ冷害年でも



稚苗ササニシキ、5月10日植え

第2図 気象の変化とイネの生育——茎数の推移(宮城県古川農試)

55年と56年の5月から7月にかけての気象経過と稲の生育相が全く異なることによって、55年の除草剤使用時期が比較的順調であったのに対し、56年は極めてきびしい気象条件にあったことである。

2. 東北地方における主要雑草

第2表に、全国と東北の主要雑草別水稲作付面積対発生面積割合を示した。これからわかるように、全国平均に比べ、東北はウリカワを除く各草種の発生面積割合が高く、発生割合も年々漸増の傾向がみられる。ことに52年から55年

にかけて、一時横這いになった発生面積割合が57年にかけてまた上昇したことは、56年の冷夏で適期除草ができなかったなどで、残存草種および量が多く、57年の発生源になったためと考えられる。

次に、東北各県別にみたのが第3図である。

ホタルイは、青森・岩手・宮城・福島で多く、ウリカワは明らかに南3県で発生が多い。オモダカは、青森で特異的に多いほかは各県同程度の発生であり、また、ミズガヤツリも東北全域同程度の発生とみてよいようである。

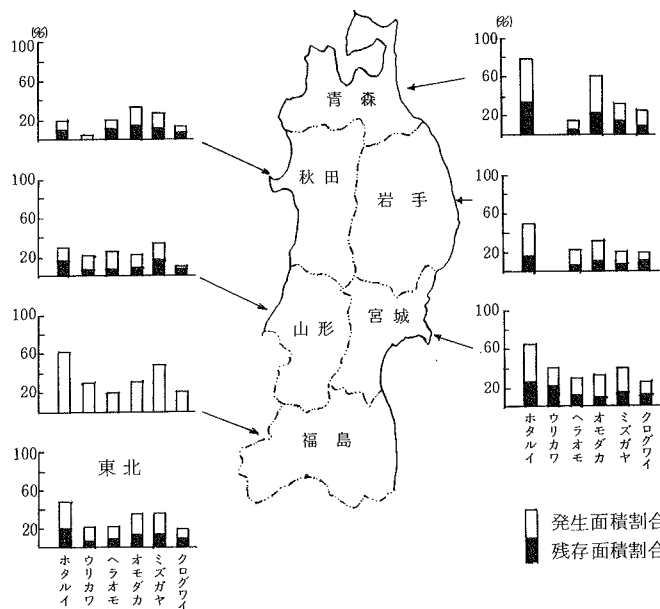
なお、主要雑草には記載しなかったが、カヤ

ツリグサ科のシズイが青森で5,000 haと急激に増加し、多少の差はあれ、東北6県すべてで発生が確認され、増加の傾向にあることと、ホタルイも従来、太平洋側は殆んどがイヌホタルイとみられてきたのが、最近タイワンヤマイが急に増加してきたことなどが特記される。

第2表 水稲作付面積対発生面積割合(%)

(日植調)

草種	東 北						全 国				
	47	49	51	52	55	57	47	49	51	52	57
ホタルイ	20	30	34	42	48	57	9	20	25	27	39
ウリカワ	8	7	22	20	17	23	11	19	30	29	37
オモダカ	12	21	28	37	33	45	10	5	2	2	20
ヘラオモダカ			15	23	22	25		9	12	13	15
ミズガヤツリ	13	28	29	33	36	11	18	20	21	24	
クログライ		10	18	18	18	19		3	8	9	10



第3図 昭和55年度水田主要雑草の発生および残存面積比(%)

(各県農政部資料)

3. 東北における冷害年(55, 56年)の除草剤利用状況

1) 水田除草剤の普及率

東北各県別水田除草剤の普及率を第3表に示した。51年に比べ、55年の初期除草剤は東北平均で15%程多くなった。中期除草剤については、①の非ホルモン系薬剤が減少し、②のホルモン系含有薬剤が増加している。このことは、前に述べた強害雑草を対象に急速普及したことと、55年は中期除草剤を使用するまでは天候が良かった

第3表 水田除草剤の普及率(%)

(各県農政部資料)

県名		初期 除草剤	中期除草剤*				後期 除草剤	その他	計
			①	②	③	計			
青 森	51	113	54	32		86	5		204
	55	110	42	63	3	108	2	4	224
	56	106	32	38	3	73	1	3	183
岩 手	51	106	53	29		82	10		198
	55	129	41	43	2	86	8		223
	56	116	32	21	1	54	3	1	174
秋 田	51	101	67	17		84	13		198
	55	111	63	21		84	12	7	214
	56	81	52	18		70	8	8	167
宮 城	51	104	76	42		118	18		240
	55	122	43	78	2	123	8	2	255
	56	136	32	58	2	92	9	1	238
山 形	51	84	67	16		83	43		210
	55	98	54	44	3	102	39	1	240
	56	93	50	41	3	94	29		216
福 島	51	85	56	41		97	12		194
	55	116	42	53	2	97	9	6	228
	56	119	36	58	2	96	6	1	222
東 北	51	99	63	30		93	17		209
	55	114	48	50	2	100	13	4	225
	56	109	40	38	2	80	10	2	201

注). ①非ホルモン系薬剤, ②ホルモン系含有薬剤, ③ベンタゾン含有薬剤(後期含まず). 昭56年の減少は5・6月の低温による。

ためである。後期除草剤については、7月以降の低温が敏感に反映して51年より減少したが、なかでも宮城の低下が大きかった。

56年は、移植当時から長期にわたり異常低温が続いたため、除草剤の普及率は当然低下したが、初期剤についてはさほど大きな落込みはみられなかった。中期剤については、北東北ほど低下が大きく、剤間ではホルモン系含有薬剤の低下が大きく、後期除草剤についても全く同傾向であった。

2) 除草剤別利用状況

55, 56年に東北で使用された除草剤別水田面積は第4表のとおりで、本田初期除草剤で最も多く使用され、かつ、55年より増加した

のはマーシュット粒剤であり、ついで多く使用されたのは、MO, エックスゴーニ, ショウロンM各粒剤である。中期除草剤は、いずれも前年比70%台に減少したが、そのなかで非ホルモン系のアピロサンが前年なみに使用され、その他の非ホルモン系薬剤の低下もホルモン系薬剤に比べ減少率が小さく、低温下での除草剤利用に除草効果より稲への安全性に配慮がなされたことを示している。

3) 冷害年の雑草発生消長と除草効果

前述の気象経過からわかるように、5～6月と高温に推移した55年の雑草発生始期から終期は平年なみであったが、56年は第5表にみられるよう

に雑草発生始期が平年より著しくおくれ、発生揃いまで長い日数を要している。第6表は、岩手農試県南で調査した年次の気象変動による初期除草剤処理後の残草量であるが、昭和55年の異常高温(5～6月)年および53年の平年なみの気象下においては初期剤の除草効果が高く剤間の差も小さいが、低温年次は除草効果が低く剤間の差も大きいと報告している。第4図に、宮城古川農試における除草剤使用期間中の日別気温経過と宮城における除草剤使用の実態を示した。

初期除草剤については、移植前土壌処理剤は平年なみに使用されたが、移植後土壌処理剤は低温とそれに伴う稲の活着不良および初期生

第4表 東北6県における水田除草剤使用面積(×100ha)

除草剤名		県名	昭 和 5 5 年 度							昭 和 5 6 年 度								
			青 森	岩 手	秋 田	宮 城	山 形	福 島	合計 (ha× 100)	水田作 付面積 対 比	青 森	岩 手	秋 田	宮 城	山 形	福 島	合計 (ha× 100)	水田作 付面積 対 比
本 田 初 期 剤	M O	227	455	409	587	356	312	2,346	41	169	422	220	440	302	273	1,826	33	
	ショウロンM	207	152	43	169	20	183	774	14	195	132	80	200	23	206	836	15	
	エックスゴーニ	103	69	425	157	210	313	1,277	22	88	60	148	223	175	252	946	17	
	ロンスター	33	87	91	26	22	100	359	6	28	51	83	31	14	134	341	6	
	デルカット	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	-	-	-	19	42	1	
	モゲトン	-	8	-	-	4	0.9	13	0.2	-	72	-	22	1	-	95	2	
	マーシェット	242	270	303	395	307	185	1,702	30	267	228	349	555	308	277	1,984	36	
本 田 中 期 剤	①	サターンS	160	130	333	257	161	232	1,273	22	88	98	212	172	145	182	897	16
		マメット	41	126	88	187	266	50	758	13	49	89	68	96	225	41	568	10
		ゲザガード	11	8	-	4	0.1	7	30	0.5	7	5	-	9	0.4	7	28	0.5
		アピロサン	100	70	297	20	76	122	685	12	93	63	283	67	79	123	708	13
	②	ゲザエム	14	0.2	-	-	-	-	14	0.2	6	-	-	-	-	-	6	0.1
		スエップM	-	5	79	3	2	-	89	2	-	-	51	2	4	-	57	1
		マメットSM	196	243	-	420	212	201	1,272	22	150	122	-	322	171	225	990	18
		クミリードSM	252	104	119	432	141	318	1,366	24	117	47	97	273	141	309	984	18
		グラキール	-	-	42	-	60	3	105	2	-	-	45	13	49	0.07	107	2
		バウナックスM	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	26	40	1
	③	ワイダー	15	9	-	3	4	15	46	1	8	5	-	5	4	8	30	0.5
		バサグラン	6	5	-	-	16	1	28	0.4	10	1	-	9	11	10	41	1
		バサグランSM	-	0.7	-	2	7	4	14	0.2	-	0.6	-	3	9	3	16	0.3
		エスグラン	0.5	3	-	13	2	-	19	0.3	3	3	-	9	2	-	17	0.3
後 期 剤	MCP-B	16	-	-	-	-	-	16	0.2	4	-	-	-	-	-	4	0.1	
	MCP	-	49	136	77	358	87	707	12	19	85	63	256	51	474	9		
	グラスジンM	2	12	-	15	3	1	33	0.5	0.7	7	30	3	10	51	1		
	その他	28	-	84	24	7	62	205	4	18	3	91	12	-	5	129	2	

注). 中期剤 ①非ホルモン系 ②ホルモン系含有剤 ③ベンタゾン含有剤
面積100ha以下4捨5入(・55より減, ○55より増)

第5表 昭和56年水田雑草の発消長(葉齢)

(岩手農試県南分場; 大川)

		5月16日	5月18日	5月20日	5月23日	5月28日	6月2日	6月7日	6月12日	6月17日
田植後日数	年次	+3日	+5	+7	+10	+15	+20	+25	+30	+35
積算気温	56年	39.4℃	60.4	83.4	128.5	200.4	260.6	338.3	433.7	526.5
	平年	46.8℃	74.3	103.4	150.2	234.5	321.1	416.3	519.2	618.7
ノビエ	56年				始	1~1.5	1.5~2.0	2.5~3.0	3.5~4.0	4.5~5.0
	平年		始	0.5~1.0	1~1.5	1.5~2.5	2.5~3.5	3~4	-	-
ホタルイ	56年				種子	始	1~1.5	2~2.5	3.5~4.0	5.0~
	平年		始	1	1~1.5	2~2.5	3~4	4~5	-	-
ヘラオモダカ	56年		1.0	1.5~2	種子 2~3	始 4~5	2~2.5 5~6	3~3.5 ヘラ葉抽出	4~5 5~7	5.5~6
	平年		始	1~2	2~3	3~4	5~6	-	-	-
ミズガヤツリ	56年		始	1~2	2~3	3~4	4~6	5~7	-	-
	平年		始	1	1.5	2~2.5	3~4	-	-	-
稲の葉齢(枚)	56年	2.3			2.4	3.3	3.7	4.5	5.4	6.2
	平年	2.3				3.9	5.4	6.2	7.2	8.0

注). 5月13日植

第6表 初期除草剤の散布1か月後の雑草発生比率
(昭.56 岩手農試県南分場;大川)

薬 剤 名	散布時期	散布量 (g/a)	無除草区に対する雑草重比率(%)			
			昭56	55	54	53
M O	-3~+3	400	24	-	32	5
X - 52	+3~+5	300	38	9	10	4
MTS - 1	+3	300	19	3	3	2
ブタクロール	+3~+5	300	6	1	1	3

散布後の気象経過 { 5月後半 異常低温 異常高温 中旬低温 平年並み
6月前半 異常低温 異常高温 平年並み 平年並み

注). 5月12~15日植, 雑草調査6月中旬(処理後約30日)。

育のおくれ(第1,2図)から処理適期が大幅におくれ, 一部は平年の中期除草剤の処理時期に使用されたものもあり, 岩手県南の成績に加え, 処理時期のおくれからも除草効果が著しく低下し, 中期除草剤の使用をさらに困難なものとした。葉害については, 葉鞘褐変, 生育抑制などの報告はあったが, 苗質の良否, 水管理の巧拙(低温対策として常時深水灌漑による徒長など)によるものが多かった。

中期除草剤の平年での使用は, 非ホルモン系薬剤が移植後15~20日, ホルモン系含有薬剤で移植後20~25日(稲5葉期)が葉害からみた使用早限となっているが, 56年の稲5葉到達日(第7表)は, 宮城古川で平年より10日おくれとなったことと, 初期除草剤使用後の残草量が多か

ったことなどから, 非ホルモン系の薬剤は稲5葉期以前(5月末)から5~6葉期頃まで, またホルモン系含有薬剤は6葉期頃から6月下旬まで使用され, 中期除草剤の使用期間は宮城県全体で1か月もの長きに及んだ。一方, 中期除草剤の使用を中止し, または使用しても残草量が多かったとの理由から, 中耕を実施し

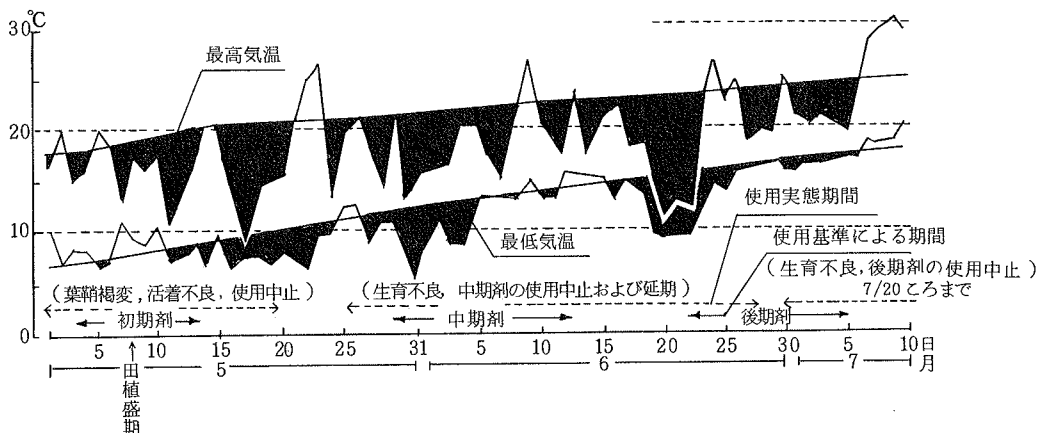
た水田面積は27%にも達した。

後期除草剤については, MCP, 2.4PAが大幅に減少したが, 残草量の多かったところで

第7表 各葉期到達月日(宮城県古川農試)

年 度	5 葉 期	6 葉 期	有効分け つ決定期
昭 46	6. 1	6. 8	6. 27
47	2	7	22
48	3	11	25
49	1	6	19
50	1	6	28
51	2	7	26
52	3	8	27
53	3	0	19
54	5	9	18
9カ年平均	2	8	23
昭 55	5. 31	5	14
56	6. 12	19	7. 3

注) 稚苗, 5月10日植, ササニシキ。



第4図 昭和56年除草剤使用期間中の日別気温経過(宮城県古川農試)

はグラスジンMが使用された。

む す び

以上、東北における昭和55、56年の冷害と同冷害年におけるところの雑草防除に関係すると考えられた事項についてのべた。

56年のように、移植前後から長期間にわたる低温が続く場合、除草剤利用が極めてむずかしくなるが、幸い日植調で不良環境条件下における除草剤安全使用法の一つとして、異常低温条件下における温度別適除草剤をまとめられたの

で、これらを参考とし、地域の環境条件に適した除草剤を選択使用するとよい。しかし、これらの除草剤をただ散布すれば除草は終わりといった安易な考えは禁物であり、気象変動に対応した、良質推廐肥施用、健苗育成による生育の安定化などの耕種技術の上に立って、除草剤を適期に適量を均一に散布し、水管理の適正化を図るのであれば、56年に経験したような気象条件下でも十分に、除草剤による雑草防除ができると考える。

昭和57年度水稻作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和57年度水稻作関係除草剤試験成績中央検討会は、昭和57年12月9～10の2日間、植調会館（東京都台東区台東1の26の6）において開催された。ここに、その結果の概要を報告する。

1.) 第1次適用性試験（適1）成績の検討.

昭和57年度の適1試験は、全7地域で32薬剤（のべ132点）について実施した。その判定結果は、第1表の通りである。なお、試験場所は次のようである。北海道地域…植調岩見沢試験地、東北地域…植調古川試験地、北陸地域…新潟県農業試験場、関東東山・東海地域…植調研究所、近畿地域…植調滋賀試験地、中国・四国地域…徳島県農業試験場、九州地域…植調佐賀試験地。

2.) 第2次適用性試験（適2）成績の検討.

昭和57年度の適2試験は次のような内訳で実施した。すなわち、稚苗移植栽培の移植前の土壌混和处理（のべ66点）移植前後土壌処理（146点）、移植後土壌処理（165点）、移植後茎葉兼土壌処理（48点）、適用時期拡大（172点）、特殊雑草防除（52点）体系是正用（155点）、湛水直播栽培用（13点）、畦畔（16点）、耕起前（5点）、休耕田用（2点）の総のべ点数は840点であった。これら試験の判定結果は第2表、実用化可能と判定された除草剤の使用基準は第3表のとおりである。

第 1 表 昭和 57 年度 水稻作関係除草剤適 1 試験成績判定結果一覧表

No.	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率		試験実施地域	判 定 結 果 概 要	
1.	CGR-88	乳	CG-113 オキサジアン	8 % 8 %	東北、関東。 (2)	寒冷地～温暖 地東部：○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ミ ズガヤツリ。（土壌混和）
2.	DPX-32	粒	未 公 開	0.25 %	北海道，北陸， 関東，近畿，四 国，九州。（6）	△	
3.	DPX-84	粒	未 公 開	0.25 %	北海道，東北， 北陸，関東，近 畿，四国，九州。 (7)	温暖地以北： □ (暖地：△)	
4.	FS-356	粒	NTN-801 ピラゾレート	3.5 % 6.0 %	北海道，東北， 北陸，関東，近 畿，四国，九州。 (7)	全域：○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウ リカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモ ダカ。（ノビエ 1.5～2 L）
5.	ID-812	粒	未 公 開		東北，関東，四 国，九州。（4）	寒冷地以西： □	カヤツリグサ科用母剤として。
6.	IDM-1	粒	未 公 開 (2 種混合)		北海道，東北， 北陸，関東，四 国，九州。（6）	△	
7.	KH-218	粒	未 公 開		北海道，東北， 関東，近畿。（4）	△	〔薬量の検討〕
8.	KNW-242	粒	未 公 開	5 %	関東，九州。 (2)	△	
9.	KNW-243	粒	KNW-242 未 公 開	5.0 % 1.5 %	北海道，東北， 北陸，関東，九 州。（5）	寒冷地～温暖 地東部：○ 他：△	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウ リカワ・ヘラオモダカ。（ノビエ 1.5 L まで）
10.	KNW-244	粒	KNW-242 未 公 開	5.0 % 6.0 %	北海道，東北， 北陸，関東，九 州。（5）	寒冷地～温暖 地東部：○ 他：□	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウ リカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモ ダカ。（ノビエ 1.5 L まで）
11.	KRH-107	粒	未 公 開	7 %	関東，近畿，四 国。（3）	△	
12.	KHR-110	粒	未 公 開	10 %	関東，近畿，四 国。（3）	温暖地：○	一年生・マツバイ・（発生前）
13.	MKS-HF	粒	未 公 開 (2 種混合)	5.1 %	関東，九州。 (2)	△	
14.	MT-225	粒	MT-124 SK-23	2.0 % 5.0 %	北海道，東北， 北陸。（3）	温暖地以西： □	

No	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率	試験実施地域	判 定 結 果 概 要	
15.	MY-71	粒	未 公 開 8.0%	関東，四国，九州。 (3)	温暖地以西： ○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ。(ノビエ1L未満)
16.	MY-93E	粒	MY-93 MY-71 (未公開) 7% 6%	関東，近畿，四国。 (4)	温暖地：△ 暖地：○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ。(ノビエ2L未満)
17.	MY-93F	粒	MY-93 MY-15 (未公開) 10% 3%	北海道，東北， 関東，近畿，四国，九州。(6)	全域：□	
18.	NC-304	粒	未 公 開 (2種混合)	北海道，東北， 北陸，関東，近畿，九州。(6)	温暖地～暖地： ◎ 他：○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。(ノビエ1L未満)
19.	NK-757	乳	未 公 開 9%	北海道，東北， 関東，近畿，九州。(5)	寒冷地以西： ○ 寒地：△	一年生・マツバイ，多年生にも抑制効果あり。(土壌混和)
20.	NK-757	粒	未 公 開 1.5%	北海道，東北， 関東，近畿，九州。(5)	寒冷地～温暖地： ○ 寒地：□ 暖地：△	一年生・マツバイ，多年生にも抑制効果あり。(植代後)
21.	NK-758	乳	未 公 開 9%	北海道，東北， 関東，近畿，九州。(5)	寒冷地～温暖地： ○ その他：□	一年生・マツバイ，多年生雑草にも抑制効果あり。(土壌混和)
22.	S-475	粒	未 公 開 (2種混合)	東北，関東，九州。(3)	△	
23.	SKH-813	粒	未 公 開 2%	北海道，東北，九州。(3)	×	
24.	SL-495	粒	未 公 開 (2種混合)	北海道，東北， 関東，近畿，九州。(5)	寒地：○ 寒冷地以西： ◎	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。(ノビエ1.5Lまで)
25.	SR-815	粒	未 公 開 (2種混合)	東北，関東，近畿，九州。(4)	寒冷地～温暖地： ○ 暖地：△	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。(ノビエ1.5Lまで)
26.	YH-442	粒	未 公 開 (3種混合) 15%	北海道，東北， 北陸，関東，四国。(5)	寒地～温暖地： ○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。
27.	NTN-571	粒	未 公 開 (2種混合) 5%	北海道，東北， 北陸，関東，近畿，九州。(6)	全域：◎	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・クログワイ。(ノビエ2.5Lごろまで)

No	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率	試験実施地域	判 定 結 果 概 要	
28.	NTN-572	粒	未 公 開	関東、九州。 (2)	□	混合母剤として。
29.	SAN-306	粒	未 公 開 5%	関東、九州。 (2)	△	
30.	SAN-307	粒	未 公 開 5%	関東、九州。 (2)	△	
31.	UO-2	粒	未 公 開 9.5% (2種混合)	東北、関東、四 国。 (3)	温暖地：○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウ リカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモ ダカ。(ノビエ1.5L ごろまで)
32.	UO-4	粒	未 公 開 7.5% (2種混合)	東北、関東、四 国、九州。 (4)	温暖地以西： ○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウ リカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモ ダカ。(ノビエ1.5L ごろまで)

注) 判定欄の記号については、◎：極めて有望、○：有望、□：可能性あり、△：再検討、×：見込なし、を示す。

第2表 昭和57年度 水稻作関係除草剤適2試験判定結果一覧表

判 定 区 分	実	実 お よ び 継	継	継?	中止
II-1 土壤混和处理	G-315・ B乳	CH-81乳.	CGS-88乳, HW-863乳, NK- 757乳, NK-758乳, YH-431乳.		
II-2 移植前後土壤処 理		ブタクロール粒, CG-113粒, CG・SW◎粒, CH-81粒, G -315・SK粒, MC-79粒, NH-93A粒, MS-256粒, MSW-2粒, MT-124粒, MT-225粒, SL-49粒, YH -411粒, YH-411◎粒, YH -3粒.	HW-864粒.		
II-3 移植後土壤処理	BM-◎ 粒	CG-113粒, FS-356粒, MM-3粒, MT-224粒, MTB-◎粒, MT-CG◎粒, NTN-801粒, S-471粒, X -567粒.	DPX-84A粒, NTN-803粒, S-473粒, SL-495粒.		
II-4 茎葉兼土壤処理		HW-52・SM粒, NTN-805 粒, NTN-806粒, YH- 5粒 ..	NY-433粒.		
II-5 適用時期拡大	BS-◎ 粒, BSM -◎粒, BAS- 3510水和,	BAS-3510◎粒, HOK-05 M粒, HOK-05P粒, HW-52 SM粒, KUH-812粒, MTB- ◎粒, NTN-806粒, シメトリ ンMCPB粒, SL-49粒, TH	NY-433粒.		

判定 区分	実	実 お よ び 継	継	継?	中止
Ⅱ-5 適用時期拡大 (つづき)	SB-77 粒.	-80粒, YH-5粒, KH-199 粒, KH-44粒, SW-751粒.			
Ⅱ-6-(1) クログワイ 対象		BAS-3510粒, MTS-1粒, <u>S-471粒</u> , YH-3粒, <u>X-567</u> <u>粒</u> .			
Ⅱ-6-(2) オモダカ対 象		S-28SM粒.			
Ⅱ-6-(3) ヒルムシロ 対象		SL-49粒.			
Ⅱ-6-(4) セリ対象		BAS-3510水和.			
Ⅱ-6-(5) シズイ対象	BAS- 3510水和	B-3015・S・BAS粒, MCP・ BAS粒, TH-63粒, SMX粒.	HOK-05A粒.		
Ⅱ-6-(6) エゾノサヤ ヌカグサ対 象			HOK-05A粒.		
Ⅱ-6-(7) クサネム対 象			HOK-05A粒.		
Ⅱ-6-(8) ウリカワ対 象			シメトリンMCPB粒.		
Ⅲ-1 湛水直播		<u>HW-52粒</u> , SL-49粒.	HW-52 ㊟粒.		
Ⅳ 畦畔雑草		MW-801液, <u>NHS-60水溶</u> .	HOE-866液, NC-412HW 水和.		
V 耕起前		MW-801液.			
Ⅵ 休耕田		グリホサート液.			
Ⅶ 体系は正試験		CG-SW粒, <u>CG-SW ㊟粒</u> , <u>MM-3粒</u> , MS-358粒, <u>MS-</u> <u>356粒</u> , <u>MS-256粒</u> , MT-CG 粒, <u>NTN-804粒</u> , SB-77粒, SL-493粒, SL-494粒, TH-63粒.	SR-811粒.		

- 注：1) 本年度は「継?」「中止」と判定された薬剤はなかった。
2) 本年度新規に使用基準の作成されたものは薬剤名にアンダーラインを入れた。
3) 2つ以上の区分にまたがるものについては、主要区分に統一整理した。

第3表 昭和57年度 水稻作関係除草剤適2使用基準一覧表

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 1 1 稚 苗 ・ 土 壌 混 和 処 理	2) CH-81 乳	土 壌 混 和 処 理	寒冷地以西 の普通期、 温暖地東部 の早期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ。 〔但し、ホタルイ は温暖地東部の み。〕	整地板使用の直前 直後。	ml/a 50～65	壤土～ 埴土 (2cm/ 日以下。	1) 混和時の水深 3～5cm。 2) 移植後の深水 をさける。
	3) G-315 ・B乳	土 壌 混 和 処 理	寒地、寒冷 地。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ミ ズガヤツリ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒冷地の み。〕	植代直前直後 (-3～-1)。	ml/a 50～75	砂壤土～ 埴土 (2cm/ 日以下)。	1) 混和時の水深 3～5cm。 2) 混和深2～3 cm。 3) 吸着の悪い土 壌(砂壤土・腐 植含量の少ない 土壌)では水の 動きの少ない場 合に葉害の危険 性があるので十 分注意する。
			温暖地以西 の早期・普 通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ミ ズガヤツリ。 〔但し、ヘラオモ ダカは温暖地東 部のみ、ミズガ ヤツリは暖地普 通期を除く。〕		50～65		
II 1 2 移 植 前 後 土 壌 処 理	1) ブタクロ ール粒	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ。	-8～+10(ノビ エ1.5Lまで)。 ホタルイ；発生前 ～2L。 ヘラオモダカ；発 生前～始。	ml/a 200～ 300	壤土～ 埴土 (2cm/ 日以下)。	1) 極端な浅植え はさける。 2) 低温時には使 用しない。 3) 200g/a散布 は多口ホース散 布とする。
			寒冷地、温 暖地の普通 期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ミ ズガヤツリ。 〔但し、ヘラオモ ダカは寒冷地の 田植前のみ。〕	-6～-3、+3 ～+10(ノビエ 1.5Lまで)。 ホタルイ；発生前 ～2L。 ヘラオモダカ；発 生前～始。 ミズガヤツリ；発 生前～3L。	田植前 200～ 300 田植後 300		
			温暖地東部 の早期。		+3～+8(ノビ エ1.5Lまで)。 ホタルイ・ミズガ ヤツリ；発生前 ～2L。	300		
			暖地の早期・ 普通期。	一年生雑草・マツ バイ。	-6～-3(早期 のみ)。	200～ 300		

区分	薬 剂 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 1 2 移植前後 土壌処理 (つづき)	1) ブタクロール粒 (つづき)		暖地の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ.	+3~+10(ノビエ1.5Lまで). ホタルイ; 発生前~2L. ミズガヤツリ; 発生前~3L.	300		
	2) CG-113 粒 〔II-3-2と共通〕	土 壌 処 理	寒地, 寒冷地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ. 〔但し, ミズガヤツリは寒冷地のみ.〕	-5~+10(ノビエ1.5Lまで). ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ; 発生始まで.	g/a 300	壤土~ 埴土 (2cm/日以下). 〔但し, 寒冷地は砂壤土(2cm/日以下)を含む. 温暖地西部の普通期と暖地早期は砂壤土(1cm/日以下)を含む.〕	
			温暖地の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ. 〔但し, ヘラオモダカは温暖地東部のみ.〕	-3~+10(ノビエ1.5Lまで). ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ; 発生始まで.			
			暖地の早期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ.	+0~ノビエ1Lまで. ホタルイ・ミズガヤツリ; 発生始まで.			
			暖地の普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ.	-3~+7(ノビエ1.5Lまで). ホタルイ; 発生始まで.			
	3) CG・SW ①粒	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ.	-3, +0~+14(ノビエ1.5Lまで). ホタルイ・ヘラオモダカ; 2Lまで. ウリカワ; 発生前~始. ヒルムシロ; 発生期.	g/a 300 ~ 400	砂壤土~ 埴土 (2cm/日以下).	1) ピラゾレートに準ずる. 2) 泥炭質土壌では, ウリカワに対する効果が低下することがある.
			寒冷地, 温暖地東部の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ. 〔但し, ヘラオモダカは寒冷地のみ.〕	-3, +0~+10(ノビエ1.5Lまで). 〔但し, 温暖地東部の早期は-3, +3~+10(ノビエ1.5Lまで).〕			

区分	薬 剂 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 1 2 移植前後土壌処理（つづき）	3) CG・SW ①粒 （つづき）	土 壌 処 理		〔み, ヒルムシロ〕 〔は普通期のみ。〕	ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ; 発生始まで。ウリカワ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発 生 期。			
			温暖地西部の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ <u>ヒルムシロ</u> 。 〔但し, ミズガヤツリ・ヒルムシロは普通期のみ。〕	－3, +0～+7（ノビエ1.5Lまで）。 〔但し, 早期は,〕 －3, +3～+7（ノビエ1.5Lまで）。 ホタルイ・ミズガヤツリ; 発生始まで。ウリカワ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発 生 期。			
			暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ <u>ヒルムシロ</u> 。	－3～+7（ノビエ1.5Lまで）。 ホタルイ; 発生前。ウリカワ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発 生 期。			
			暖地の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ。	+3～+10（ノビエ1.5Lまで）。 ホタルイ; 発生前。ウリカワ; 2Lまで。 ミズガヤツリ; 発 生 始 ま で。			
	4) CH-81 粒	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ。	－3～+10（ノビエ1.5Lまで）。 ホタルイ・ヘラオモダカ; 発生始まで。	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 （2cm／ 日以下）。	1) 深水処理はさける。 2) <u>コナギ</u> ・ホタルイ・ミズガヤツリは早目に処 理する。
			寒冷地。	一年生雑草・マツバイ。			埴土～ 埴土 （2cm／ 日以下）。	
			温暖地東部の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ <u>ミズガヤツリ</u> 。	－3～+7（ノビエ1.5Lまで）。 ホタルイ・ミズガヤツリ; 発生始まで。		〔但し,〕 暖地は 埴壤土 ～埴土 （2cm ／日以 下）。〕	
			温暖地西部以西の普通期。	一年生雑草・マツバイ。				

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理期時	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1 2 移植前後 土壌処理 (つづき)	5) G-315・SK粒	土壌処理	全域の普通期, 温暖地 東部・暖地の早期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ。 (但し, ヘラオモ ダカは温暖地東 部以北のみ.)	-3~+5 (ノビ エ1Lまで). ホタルイ・ヘラオ モダカ; 発生始ま で.	g/a 300	壤土~ 埴土 (2cm/ 日以下). [但し, 温暖地 西部は 砂壤土 ~埴土 (2cm /日以 下), 暖地の 早期は 砂壤土 ~埴土 (1cm /日以 下).]	1) 深水処理はさ ける. 2) クログワイ防 除はクログワイ にも有効な後期 処理剤と組合せ て使用する.
			寒冷地.	クログワイ.	田植後(+5). クログワイ; 発生 前~直後.	400		
			温暖地の普 通期.	クログワイ.	田植後(+5). クログワイ; 発生 始まで.	300		
	7) MC-79 粒	土壌処理	寒地, 寒冷 地, 温暖地 の早期・普 通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ。 (但し, ヘラオモ ダカは温暖地西 部の早期を除く.)	-3~+8 (ノビ エ1Lまで). [但し, 寒冷地は -7~+8 (ノビ エ1Lまで), 暖地の早期は, -3~+3.]	g/a 300~ 400	砂壤土~ 埴土 (2cm/ 日以下). [但し, 温暖地 東部は 砂壤土 ~埴土 (極端 な漏水 田を除 く).]	1) 深水処理はさ ける.
			暖地の普通 期・早期.	一年生雑草・マツ バイ.	ホタルイ, ヘラオ モダカ; 発生始ま で.			
	8) MH-93 A粒	土壌処理	寒地, 寒冷 地.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ.	-3, +3~+8 (ノビエ1Lま で). [但し, 寒地は, +3~+8 (ノ ビエ1Lまで), 暖地は-3,+3 ~+7 (ノビエ 1Lまで).] ホタルイ・ヘラオ モダカ; 発生始ま で.	g/a 300~ 400 [但し, 暖地は 300の み.]	壤土~ 埴土 (2cm/ 日以下). [但し, 寒地・ 暖地は 砂壤土 ~埴土 (2cm /日以 下).]	1) 深水処理はさ ける.
			温暖地・暖 地の普通期.	一年生雑草・マツ バイ.				
	9) MS-256 粒	土壌処理	全域の早期・ 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ウ リカワ・オモダカ.	-3~+10 (ノビ エ1.5Lまで). [但し, 暖地普通 期は-3~+7]	g/a 300~ 400	砂壤土~ 埴土 (2cm/ 日以下).	1) 極端な浅植え はさける. 2) 泥炭質土壌で はウリカワに対

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1 2 移植前後土壌処理（つづき）	9) MS-256 粒 (つづき)	土 壌 処 理		ミズガヤツリ・ヒ ルムシロ。 〔但し、ヘラオモ ダカは温暖地東 部以北のみ、オ モダカは温暖地 東部のみ、ミズ ガヤツリは寒地 を除く、ヒルム シロは温暖地西 部以西の早期を 除く。〕	〔ノビエ2Lま で〕。 ホタルイ・ヘラオ モダカ；発生始ま で。 〔但し、寒地は2 Lまで、温暖地 東部のヘラオモ ダカは2Lまで。〕 オモダカ・ミズガ ヤツリ；発生始ま で。 ウリカワ；発生始 まで。 〔但し、寒地は3 Lまで、暖地は 発生前～2L。〕 ヒルムシロ；発生 期。		〔但し、 寒冷地 は壌土 ～壌土 (2cm /日以下)、 暖地の 早期は 砂壌土 ～壌土 (1cm /日以下)。〕	する効果が低下 することがある。
	10) MSW-2 粒	土 壌 処 理	寒冷地。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ミズガヤツリ。	－3～＋5（ノビ エ1Lまで）。 ホタルイ・ミズガ ヤツリ；発生始ま で。	g/a 300	壌土～ 壌土 (2cm/ 日以下)。	
			温暖地東部 の早期・普 通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ。	－3～＋5（ノビ エ1Lまで）。 ホタルイ；1Lまで。		砂壌土～ 壌土 (2cm/ 日以下)。	
	11) MT-124 粒	土 壌 処 理	寒冷地北部、 温暖地東部 と暖地の普 通期。	一年生雑草・マツ バイ。	－3～＋5（ノビ エ1Lまで）。	g/a 300～ 400 〔但し、 温暖地 東部は 300の み。〕	寒冷地： 壌土～壌 土(2cm /日以下)。 温暖地東 部；砂壌 土～壌土 (2cm/ 日以下)。 暖地；壌 土～壌土 (1.5 cm/日以下)。	1) 処理後の深水をさける。
	12) MT-225 粒	土 壌 処 理	暖地の普通 期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ。	－3～＋5（ノビ エ1Lまで）。 ホタルイ；発生始 まで。	g/a 300～ 400	壌土～ 壌土 (1.5cm /日以下)。	1) 処理後の深水をさける。
	13) SL-49 粒 〔Ⅱ-6- 3と共通〕	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ウ リカワ・ヒルムシ ロ。	＋3～＋7（ノビ エ1Lまで）。 ホタルイ・ヘラオ モダカ・ウリカワ ・ヒルムシロ；発	g/a 300～ 400	砂壌土～ 壌土 (2cm/ 日以下)。	1) 泥炭質土壌で はウリカワに対 する効果が低下 することがある。 2) 砂壌土で著し

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 1 2 移植前後土壌処理（つづき）	13) SL-49 粒 〔II-6-〕 〔3と共通〕 （つづき）				生始まで。		〔但し、 温暖地 西部の 早期は 壤土～ 埴土 （2cm ／日以下）〕	い高温条件の時 は、クロロシス の発生が著しい ので注意する。
			寒冷地以西 の早期・普 通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ウ リカワ・ミズガヤ ツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ホタルイ は暖地を除く、 ヘラオモダカは 寒冷地のみ、ミ ズガヤツリは温 暖地の早期と暖 地の普通期を除 く、ヒルムシロ は寒冷地と温暖 地東部・暖地の 普通期のみ。〕	－3～＋7（ノビ エ1Lまで）。 〔但し、暖地普通 期はノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ヘラオ モダカ・ヒルムシ ロ；発生始まで。 〔但し、温暖地東 部のホタルイは 移植後処理のみ、 2Lまで。 ウリカワ；2Lま で。 ミズガヤツリ；発 生始まで。 〔但し、寒冷地は 1Lまで、温暖 地西部は2Lま で。〕			
		土 壌 処 理	寒地、寒冷 地。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ミ ズガヤツリ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒冷地の み。〕	－3～＋5（ノビ エ1Lまで。 ホタルイ・ヘラオ セダカ・ミズガヤ ツリ；発生前～始。	g/a 300～ 400	壤土～ 埴土 （2cm／ 日以下）。 〔但し、 暖地は 壤土～ 埴土 （1cm ／日以下）〕	1) 深水処理はさ ける。
			温暖地以西 の普通期、 温暖地東部 の早期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ミズガヤツリ。 〔但し、ミズガヤ ツリは温暖地の 普通期のみ。〕				
	15) YH-411 ①粒	土 壌 処 理	温暖地西部 の普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ。	－3～＋5（ノビ エ1Lまで）。 ホタルイ；発生始 まで。	g/a 300～ 400	壤土～ 埴土 （2cm／ 日以下）。	1) 深水処理はさ ける。
	16) YH-3 粒 〔II-6-〕 〔1と共通〕	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ。	－3～＋7（ノビ エ1Lまで。 ホタルイ・ヘラオ モダカ・ミズガヤ ツリ；発生前～2 L。 クログワイ；発生 始まで。	g/a 300～ 400 〔但し、 暖地の クログ ワイは 400の み。〕	砂壤土～ 埴土 （2cm／ 日以下）。 〔但し、 寒地、 寒冷地、 温暖地〕	1) 深水処理はさ ける。 2) クログワイ防 除はクログワイ にも有効な後期 処理剤と組み合 わせて使用する。
			寒冷地、温 暖地の早期 ・普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ミ ズガヤツリ・クロ				

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 1 2 移植前後 土壌処理 (つづき)	16) YH-3 粒 (II-6- 1と共通) (つづき)			グワイ。 (但し、ヘラオモ ダカは寒冷地の み、クログワイ は普通期のみ。)			西部の 早期は 壤土～ 埴土 (2cm /日以下)。 暖地は 壤土～ 埴土 (1cm /日以下)。	
			暖地の早期 ・普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ミズガヤツ リ・クログワイ。	-3～+5(ノビ エ1Lまで)。 ミズガヤツリ；発 生前～2L。 クログワイ；発生 始まで。			
II 1 3 移植後 土壌処理	1) BM-Ⓡ 粒	土 壌 処 理	寒冷地以西 の普通期、 温暖地東部 の早期。 (沖縄県の 一期作も 含む。)	一年生雑草・マツ バイ。	-4～+10(ノビ エ1.5Lまで)。	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 (極端な 漏水田は 除く)。	
	2) OG-113 粒		<II-2-2 参照>					
	4) FS-356 粒	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ウ リカワ・ヒルムシ ロ。	+3～+7(ノビ エ1Lまで)。 ホタルイ・ヘラオ モダカ・ウリカワ ・ヒルムシロ；発 生始まで。	g/a 300	埴土～ 埴土 (2cm/ 日以下)。	
			寒冷地。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ウ リカワ・ミズガヤ ツリ・ヒルムシロ。	+3～+10(ノビ エ1.5Lまで)。 ホタルイ・ヘラオ モダカ・ウリカワ ・ミズガヤツリ； 2Lまで。 ヒルムシロ；発生 期。		埴壤土～ 埴土 (2cm/ 日以下)。	
	5) MM-3 粒	土 壌 処 理	全域の早期 ・普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ウ リカワ・ミズガヤ ツリ。 (但し、ヘラオモ ダカは寒地と寒 冷地のみ、ウリ カワは温暖地西 部以西の早期を 除く、ミズガヤ ツリは寒地と暖 地の普通期を除 く。)	+3～+10(ノビ エ1.5Lまで)。 (但し、暖地の早 期は+3～+10 (ノビエ1Lま で)。 ホタルイ・ヘラオ モダカ・ウリカワ ・ミズガヤツリ； 発生始～2L。	g/a 300～ 400	埴土～ 埴土 (1.5cm /日以下)。 (但し、 暖地早 期は埴 土～埴 土(1 cm/日 以下)。	1) ブタクロール に準ずる。

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ Ⅰ 3 移植後土壌処理（つづき）	6) MT-224 粒	土壌処理	寒地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ.	+3～+7(ノビエ1Lまで). ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ; 発生始まで.	g/a 300～400	壤土～ 埴土 (1.5cm/日以下).	
	7) MTB- ⑧粒	土壌処理	寒地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ.	+2～ノビエ2Lまで. ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 発生始～2L.	g/a 300～400	砂壤土～ 埴土 (2cm/日以下).	
			寒冷地以西の普通期, 温暖地東部および暖地の早期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ. 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地のみ.〕				
	8) MT-CG ①粒	土壌処理	寒地, 寒冷地, 温暖地東部の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ. 〔但し、ミズガヤツリは温暖地東部のみ, ウリカワは温暖地東部の早期を除く.〕	+3～+10(ノビエ1.5Lまで). ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ; 2Lまで. ミズガヤツリ; 発生始まで.	g/a 300～400	壤土～ 埴土 (2cm/日以下). 〔但し、寒冷地と温暖地西部は砂壤土(1cm/日以下)を含む.〕	
			温暖地西部以西の普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ.	+3～+7(ノビエ1.5Lまで). ホタルイ; 発生始まで. ウリカワ; 2Lまで.			
	9) NTN- 801粒	土壌処理	寒冷地.	ノビエ・カヤツリグサ・マツバイ.	+3～+10(ノビエ1.5Lまで).	g/a 300	壤土～ 埴土 (2cm/日以下).	
	11) S-471 粒 〔Ⅱ-6-1と共通〕	土壌処理	寒地, 寒冷地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・クログワイ. 〔但し、ミズガヤツリとクログワイは寒冷地のみ.〕	+3～+10(ノビエ1.5Lまで). ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・クログワイ; 発生始まで.	g/a 300	壤土～ 埴土 (2cm/日以下).	1) 深水処理はさける.

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ Ⅰ 3 移植後 土壌処理 (つづき)	11) S-471 粒 〔Ⅱ-6- 1と共通〕 (つづき)		温暖地東部の 早期・普通 期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ウ リカワ・ミズガヤ ツリ・クログワイ。 〔但し、ウリカワ は早期のみ、ク ログワイは普通 期のみ。〕	+3～+7(ノビ エ1Lまで)。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ ・クログワイ；発 生始まで。			
	14) X-567 粒 〔Ⅱ-6- 1と共通〕	土 壌 処 理	寒地、寒冷 地。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ウ リカワ。 〔但し、ヘラオモ ダカは寒地のみ、 クログワイは寒 冷地のみ。〕	+3～+7(ノビ エ1Lまで)。 ホタルイ・ヘラオ モダカ・ウリカワ ・ミズガヤツリ・ クログワイ；発生 始まで。	$\frac{g}{a}$ 300	壤土～ 埴土 (2cm/ 日以下)。	1) 深水処理はさ ける。
Ⅱ Ⅰ 4 茎葉兼 土壌処理	1) HW-52・ SM粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	温暖地の普 通期。	一年生雑草・マツ バイ・ウリカワ。	+10～+15(ノビ エ2.5Lまで)。 ウリカワ；3Lま で。	$\frac{g}{a}$ 300～ 400	壤土～ 埴土 (2cm/ 日以下)。	1) シメトリン混 合剤の使用上の 注意を守る。 2) 低温時は、薬 害発生の危険性 があるので使用 はさける。
	2) NTN- 805粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒冷地。	一年生雑草・マツ バイ。	+7～+15(ノビ エ2Lまで)。	$\frac{g}{a}$ 300	埴壤土～ 埴土 (2cm/ 日以下)。	1) シメトリン混 合剤の使用上の 注意を守る。
	3) NTN- 806粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	温暖地の普 通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ヒルム シロ。	+15～+20(ノビ エ3.5Lまで)。 ホタルイ；3Lま で。 ウリカワ；5Lま で。 ヒルムシロ；発生 盛～増殖初期。	$\frac{g}{a}$ 300	砂壤土～ 埴土 (1cm/ 日以下)。 〔但し、 砂壤土は温暖 地東部 のみ。〕	1) シメトリン混 合剤の使用上の 注意を守る。 2) 低温時は、薬 害発生の危険性 があるので使用 はさける。

区分	薬 剂 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ Ⅰ 4	5) YH-5 粒	茎葉・土壌処理	温暖地の普通期, 温暖地東部の早期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ.	+10～ノビエ3 L まで. 〔但し, 早期は, +15～ノビエ2.5 L まで. ホタルイ; 発生始～4 L.〕	g/a 300 ～ 400	壤土～ 埴土 (2 cm/日以下).	1) シメトリン混合剤の使用上の注意を守る. 2) 低温時は, 薬害発生の危険性があるので使用はさける.
			暖地の早期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ.	+15～+20 (ノビエ2.5 L まで). ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 発生始～2 L.	300	埴埴土～ 埴土 (1 cm/日以下).	
Ⅱ Ⅰ 5	1) BS-㊸ 粒	茎葉・土壌処理	全域の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ.	田植前後土壌処理した場合, +15～+25 (ノビエ2 L まで). 〔但し, 寒地は300のみ.〕	g/a 300 ～ 400	砂埴土～ 埴土 (極端な漏水田は除く).	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) シメトリン混合剤使用上の注意をまもる.
適用時期拡大	2) BSM-㊸粒	茎葉・土壌処理	寒地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ.	田植前後土壌処理した場合, 寒地: +20～+30 (ノビエ2.5 L). 寒冷地, 温暖地東部: +20～+30 (ノビエ3 L). 温暖地西部以西: +20～+25 (ノビエ3 L). 〔但し, 寒冷地以北はイネ5 L 期以降. ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 発生始～4 L.〕	g/a 300 ～ 400 〔但し, 寒地は300のみ.〕	埴土～ 埴土 (2 cm/日以下). 砂埴土 (1 cm/日以下).	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) シメトリン混合剤使用上の注意をまもる. 3) 低温時は, 薬害発生の危険性があるので使用はさける. 4) クログワイ防除はクログワイに有効な前処理剤との組み合わせで使用する.
			寒冷地, 温暖地東部の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・オモダカ・ミズガヤツリ・クログワイ. 〔但し, ヘラオモダカは寒冷地のみ.〕	〔但し, 温暖地西部以西のウリカワは発生始～5 L. オモダカ; 発生始～2 L. 〔暖地西部以西のオモダカは発生始～矢じり葉初期. クログワイ; 発生始～草丈5 cm.〕			
			温暖地西部以西の普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・オモダカ・クログワイ. 〔但し, クログワイは温暖地西部のみ.〕				

区分	薬 剤 名	処理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ Ⅰ 5 適用時期拡大(つづき)	3)BAS-3510 (酸)水和 〔Ⅱ-6-4, Ⅱ-6-5 と共通〕	茎葉 処理 ・ 落水 散布	寒地.	一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホ タルイ・ヘラオモ ダカ・ウリカワ.	田植前後土壌処理 した場合, 一年生非イネ科雑 草; 生育期. ホタルイ; 発生盛 ～花茎抽出始期. ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・セリ; 発生 盛～増殖中期. オモダカ; 発生盛 ～矢じり葉初期. コウキヤガラ; +30 日前後. クログワイ; 草丈 10～30 cm. シズイ; 草丈20～ 30 cm(5～8L).	g/a 40～60	全土壌.	1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する. 2) 散布は水稻に なるべくかから ないようにする. 3) 処理後の灌水 は, 48～72時 間経過後に行な う. 4) 処理後2日以 内に降雨が予想 される場合は使 用をさしひかえ る. 5) クログワイ防 除はクログワイ に有効な前処理 剤との組み合わ せで使用する. また, 処理時期 が早いと効果が 変動する. 6) 寒地での散布 は高温時に行な う.
			寒冷地.	一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホ タルイ・ヘラオモ ダカ・ウリカワ・ オモダカ・ミズガ ヤツリ・クログワ イ・セリ・シズイ.				
			温暖地東部 の早期・普 通期.	一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホ タルイ・ヘラオモ ダカ・ウリカワ・ オモダカ・ミズガ ヤツリ・クログワ イ・コウキヤガラ. 〔但し, クログワ イは普通期のみ〕				
			温暖地西部 の普通期.	一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホ タルイ・ヘラオモ ダカ・ウリカワ・ オモダカ・ミズガ ヤツリ・クログワ イ・コウキヤガラ・ セリ.				
			暖地の早期・ 普通期.	一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホ タルイ・ヘラオモ ダカ・ウリカワ・ オモダカ・ミズガ ヤツリ・クログワ イ・コウキヤガラ. 〔但し, ヘラオモ ダカ・オモダカ・ クログワイは普 通期のみ.〕				
	4.5.6) BAS-3510 ①粒	茎は落 葉処理 散・布 ・浅水 もしく	寒地, 寒冷 地.	一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホ タル・ヘラオモダ カ・ミズガヤツリ. 〔但し, ミズガヤ ツリは寒冷地の み.〕	田植前後土壌処理 した場合, 寒地～温暖地東部 : +20～+30. 温暖地西部: +12 ～+25. 暖地早期: +30～	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 (1.5cm/ 日以下).	1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する. 2) 処理後の灌水 は48～72時間 経過後に行なう.

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 5 適用時期拡大(つづき)	4.5.6) BAS-3510 ①粒	茎葉処理・浅水もしくは落水散布	温暖地の普通期, 温暖地東部の早期.	一年生非イネ科雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ. 〔但し, ウリカワは温暖地東部のみ.〕	+ 40. 暖地普通期: + 7 〜 + 25. 一年生非イネ科; 生育期. ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 発生盛〜前期. 〔但し, 暖地のウリカワは3〜8L, 温暖地西部以西のミズガヤツリは3〜7L.〕			
			暖地の早期・普通期.	一年生非イネ科雑草・マツバイ・ウリカワ・ミズガヤツリ. 〔但し, ミズガヤツリは早期のみ.〕				
	7) HOK-05M粒	茎葉・土壌処理	寒地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理した場合, + 20〜 + 25 (ノビエ 2.5 Lまで).	g/a 300 ~ 400	砂壤土〜植土 (2cm/日以下).	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる. 3) 低温時は葉害発生の危険性があるので使用はさける.
			寒冷地	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ.	〔但し, 寒地はノビエ 2 Lまで, 寒冷地以北はイネ 5 L以降.〕 ホタルイ; 2 Lまで.			
			温暖地以西の普通期, 温暖地西部以西の早期	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒロムシロ. 〔但し, ミズガヤツリは温暖地西部以西の早期のみ.〕	ヘラオモダカ; 3 Lまで. ウリカワ; 4 Lまで. ミズガヤツリ; 5 Lまで. ヒロムシロ; 増殖初期.			
	8) HOK-05P粒	茎葉・土壌処理	温暖地以北の普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒロムシロ. 〔但し, ヘラオモダカは寒地と寒冷地, ヒロムシロは温暖地のみ.〕	田植前後土壌処理した場合, + 20〜 + 25 (ノビエ 2 Lまで). 〔但し, 寒冷地以北はイネ 5 L期以降.〕 ホタルイ; 2 Lまで. ヘラオモダカ; 3 Lまで. ウリカワ; 4 Lまで. ヒロムシロ; 増殖初期.	g/a 300 ~ 400 〔但し, 寒地は300のみ.〕	壤土〜植土 (1.5cm/日以下). 〔但し, 寒地は砂壤土〜植土 (1.5cm/日以下).〕	1) 前処理剤との組み合わせで使用する. 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる. 3) 低温時は葉害発生の危険性があるので使用はさける.
	9) HW-52SM粒	茎葉・土壌処理	寒地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・	田植前後土壌処理した場合.			

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ ― 5 適用時期拡大(つづき)	9) <u>HW-52 SM粒</u> (つづき)	茎葉・土壌処理	寒冷地以西の普通期。	ヘラオモダカ・ウリカワ。 一年生雑草・マツバイ・ウリカワ。	+20～+25(ノビエ2.5Lまで)。 〔但し、寒地はノビエ2Lまで、寒冷地以北はイネ5L期以降。〕 ホタルイ・ヘラオモダカ；2Lまで。 ウリカワ；5Lまで。 〔但し、寒地、寒冷地は4Lまで。〕	400 〔但し、寒地は300のみ。〕	(2cm/日以下)。 〔但し、寒地と温暖地は壌土～埴土(2cm/日以下)。 暖地は砂壌土～埴土(1cm/日以下)〕	用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は薬害発生の危険性があるので使用はさける。
	10) <u>KUH-812粒</u>	茎葉・土壌処理	寒地	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ。	田植前後土壌処理した場合、 +20～+25(ノビエ2Lまで、イネ5L期以降)。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ；2Lまで。	g/a 300	壌土～埴土(2cm/日以下)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は薬害発生の危険性があるので使用はさける。
	11) <u>MTB-®粒</u>	茎葉・土壌処理	寒地、寒冷地。 温暖地の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ。 一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・オモダカ・ミズガヤツリ。 〔但し、オモダカとミズガヤツリは温暖地東部のみ。〕	田植前後土壌処理した場合、 +15～+20(ノビエ2Lまで)。 〔但し、寒地はノビエ1.5Lまで、温暖地の普通期は、+10～+20(ノビエ2Lまで)〕 ホタルイ・ヘラオモダカ・オモダカ；発生始～2L。 ウリカワ・ミズガヤツリ；発生始～3L。	g/a 300～ 400	壌土～埴土(2cm/日以下)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。
	12) <u>NTN-806粒</u>	茎葉・土壌処理	温暖地以北の普通期、温暖地東部の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ。 〔但し、ヘラオモダカは寒地と寒冷地のみ、ヒルムシロは寒冷地を除く。〕	田植前後土壌処理した場合、 +20～+25(ノビエ3.5Lまで)。 〔但し、寒地はノビエ2Lまで、寒冷地はノビエ2.5Lまで、寒冷地以北はイネ5L期以降。〕 ホタルイ；3Lまで(寒地、寒冷	g/a 300～ 400	砂壌土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒冷地は埴土～埴土(2cm/日以下)〕 温暖地西部は壌土	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は薬害発生の危険性があるので使用はさける。

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ Ⅰ 5 適用時期拡大（つづき）	12) NTN-806 粒 (つづき)	茎葉・土壌処理			地は2 Lまで。 ヘラオモダカ；3 Lまで（寒地は2 Lまで）。 ウリカワ；5 Lまで（寒地は2 Lまで、寒冷地は4 Lまで）。 ヒロムシロ；発生盛～増殖初期。		～埴土 (1 cm / 日以下)。	
	13) SB-77 粒	土壌処理	温暖地東部以北の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ。 (但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは温暖地東部を除く。)	田植前後土壌処理した場合、 + 10 ～ + 20 (ノビエ1.5 Lまで)。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ；2 Lまで。	g/a 300	砂埴土～埴土 (2 cm / 日以下)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。
	14) シメトリン・MCP B 粒 (Ⅱ-5-31, Ⅱ-6-8 と共通)	茎葉・土壌処理	寒地、寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ。 (但し、ウリカワは寒冷地南部のみ。)	田植前後土壌処理した場合、 + 20 ～ + 25 (ノビエ1.5 Lまで)。 (但し、寒地は+20 ～ +30、寒冷地以北はイネ5 L期以降。	g/a 300 ～ 400 (但し、寒地と暖地は300のみ。)	埴土～埴土 (2 cm / 日以下)。 砂埴土 (1 cm / 日以下)。 (但し、暖地早期は埴土～埴土(1 cm / 日以下)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は被害発生の危険性があるので使用はさける。
			温暖地以西の普通期、温暖地東部・暖地の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヒルムシロ。 (但し、ホタルイは温暖地西部のみ、ヒルムシロは温暖地の普通期のみ。)	ホタルイ；発生始～2 L。 ウリカワ；発生揃～5 L (暖地普通期は3～8 L)。 ヘラオモダカ；発生始～4 L。 ヒルムシロ；増殖初期。			
	15) SL-49 粒	土壌処理	寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ。	田植前後土壌処理した場合、 + 10 ～ + 15 (ノビエ1 Lまで)。 (但し、暖地は1.5 Lまで。	g/a 250 ～ 300	砂埴土～埴土 (2 cm / 日以下)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。
			温暖地の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヒルムシロ。 (但し、オモダカは)	ヘラオモダカ；発生始まで。 ホタルイ・ミズガヤツリ・オモダカ；2 Lまで（寒冷地のホタルイ			

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 5 適用時期拡大(つづき)	15) SL-49 粒 (つづき)	土壌処理		温暖地西部の普通期のみ。ヒルムシロは普通期のみ。	は発生始まで、ウリカワ；3Lまで。 ヒルムシロ；発生期まで。			
			暖地の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ。 (但し、ホタルイ・ミズガヤツリは早期のみ。)				
	16) TH-80 粒	茎葉・土壌処理	寒冷地以西の <u>早期</u> ・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ。 (但し、ホタルイは温暖地東部を除く。ヘラオモダカは寒冷地のみ。ヒルムシロは温暖地西部の普通期のみ。)	田植前後土壌処理した場合、 +15～+25(ノビエ2.5Lまで)。 (但し、寒冷地は、 +20～+25、イネ5L期以降。 ホタルイ；発生揃～2L。 ヘラオモダカ；発生揃～3L。 ウリカワ；発生揃～5L。 ヒルムシロ；発生盛～増殖初期。	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 (2cm/日以下)。 (但し、暖地早期は1cm/日以下)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は葉害発生の危険性があるので使用はさける。
	17) YH-5 粒	茎葉・土壌処理	寒地、寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ。 (但し、ミズガヤツリは寒冷地のみ。)	田植前後土壌処理した場合、 寒地：+20～+30(ノビエ2Lまで)。 寒冷地以西：+20～+25(ノビエ2.5Lまで)。 (但し、寒冷地、温暖地の普通期はノビエ3Lまで、寒冷地以北はイネ5L期以降。 ホタルイ；発生始～2L。 ウリカワ・ヘラオモダカ；発生始～4L。 ミズガヤツリ；発生始～3L。	g/a 300～ 400 (但し、 暖地は 300のみ)	砂壤土～ 埴土 (2cm/日以下)。 (但し、砂壤土は寒冷地のみ)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は葉害発生の危険性があるので使用はさける。
	19) KH-199 粒	茎葉・土壌処理	寒地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・	田植前後土壌処理した場合。	g/a 300～	砂壤土～ 埴土	1) 前処理剤との組み合わせで使

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 5 適用時期拡大（つづき）	19) KH-199 粒 (つづき)	茎葉・土壌処理		ヘラオモダカ。	寒地：+20～+30。 寒冷地・暖地：+20～+25。 温暖地：+15～+20。	400 〔但し、寒地と暖地は300のみ。〕	(2cm/日以下)。 〔但し、寒地、温暖地東部、暖地は砂壤土を除く。〕	用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意を守る。 3) 低温時は、薬害発生の危険性があるので使用はさける。
			寒冷地以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヒルムシロ・ウキクサ。 〔但し、ホタルイは温暖地西部の早期と暖地の普通期を除く。ヒルムシロは寒冷地および温暖地東部・暖地の早期を除く。ウキクサは温暖地西部のみ。〕	〔但し、ノビエ1.5Lまで、寒冷地以北はイネ5L期以降。〕 ホタルイ；発生始～5L。 ヘラオモダカ；発生始～4L。 ウリカワ；発生盛～5L。 ヒルムシロ；発生盛～増殖初期。			
	20) KH-44 粒	茎葉・土壌処理	寒地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ。	田植前後土壌処理した場合、+20～+25（ノビエ2Lまで）。 〔但し、寒冷地以北はイネ5L期以降。〕	g/a 300～400	壤土～埴土（2cm/日以下）。	1) 前後処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意を守る。 3) 低温時は、薬害発生の危険性があるので使用はさける。
			寒冷地、温暖地東部の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ウリカワ・ヒルムシロ。	ホタルイ・ヘラオモダカ；2Lまで、ウリカワ；4Lまで。 ヒルムシロ；発生盛～増殖初期。			
	31) シメトリン・MCPB 粒		<Ⅱ-5-14と共通>					
	32) SW-751 粒	土壌処理	寒地、寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ。 〔但し、ヒルムシロは寒冷地のみ。〕	田植前後土壌処理した場合、 寒地、寒冷地：+5～+20（ノビエ1Lまで）。 温暖地東部：+5～+20（ノビエ1.5Lまで）。 温暖地西部以西：+5～+15（ノビエ1.5Lまで）。 暖地：+5～+15（ノビエ2Lまで）。	g/a 300	砂壤土～埴土（2cm/日以下）。 〔但し、寒地は壤土～埴土（2cm/日以下）。〕	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) 砂壤土で著しい高温条件の時は、クロロシスの発生が著しいので注意する。 3) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。
			温暖地の普通期、温暖地東部の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。	ホタルイ・ミズガヤツリ；発生始			
			暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・				

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ-5 (つづき) 適用時期拡大				ウリカワ。	で。 ウリカワ；発生前 ～2 L (温暖地 東部は4 Lまで)。 ヘラオモダカ；発 生始～2 L。 ヒルムシロ；発生 期。			
Ⅱ-6-1 クログワイ対象	1) BAS-3510 粒	茎葉処理・ 浅水もしくは 落水散布	寒地。	一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホ タルイ・ヘラオモ ダカ・ウリカワ。	田植前後土壌処理 した場合、 一年生非イネ科； 生育期。 ホタルイ；発生盛 ～花茎抽出始期。 ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ；発生盛～増 殖初期 (温暖地 以西は発生盛～ 増殖中期)。 オモダカ；発生盛 ～発生揃期 (温 暖地西部以西は 発生盛～矢じり 葉初期)。	g/a 300～ 400 〔但し、 寒地は 400～ 600。〕	砂壤土～ 埴土 (1.5 cm/ 日以下)。 〔但し、寒 地は埴土 ～埴土 (2 cm/ 日以下)〕	1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する。 2) 落水もしくは 浅水で使用する。 3) 処理後の灌水 は48～72時間 経過後に行なう。 4) 処理後2日以 内に降雨が予想 される場合は、 使用をさしひか える。 5) 寒地浅水処理 は、処理後3日 間止水する。 6) クログワイ防 除はクログワイ にも有効な中期 剤と組み合わせ て使用する。
			寒冷地以西 の普通期、 温暖地東部・ 暖地の早期。	一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホ タルイ・ヘラオモ ダカ・ウリカワ・ オモダカ・ミズガ ヤツリ。 〔但し、オモダカは 暖地早期を除く。 ヘラオモダカは温 暖地西部を除く。〕				
			温暖地東部 の普通期。	クログワイ。	田植前後土壌処理 した場合、 +15～+30。 クログワイ；草丈 15 cm以下。	g/a 400	埴土～ 埴土 (2 cm/ 日以下)。	
	2) MTS-1 粒	土 壌 処 理	全域の早期・ 普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ クログワイ。 〔但し、クログワイ は寒地と温暖地西 部以西の早期を除 く。〕	-3～+7 (ノビ エ1 Lまで)。 ホタルイ・クログ ワイ；発生始まで。	g/a 300～ 400	埴土～ 埴土 (2 cm/ 日以下)。	1) CNPに準ず る。 2) クログワイ防 除はクログワイ にも有効な後期 剤と組み合わせ て使用する。
	3) S-471 粒		<Ⅱ-3-11 参照>					
	4) YH-3 粒		<Ⅱ-2-16 参照>					
	5) X-567 粒		<Ⅱ-3-14 参照>					

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 6 2 オモダカ対象	1) S-28・SM粒	茎葉・土壌処理	寒地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ。	田植前後土壌処理した場合、 寒地：+20～+30（ノビエ2Lまで）。	g/a 300 〔但し、寒冷地は300（～400）〕	壤土～ 埴土 （2cm/日以下）。 〔但し、寒冷地以西は砂壤土（1cm/日以下）を含む。〕	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は、葉害発生の危険性があるので使用はさける。
			寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・オモダカ・ヒルムシロ。	寒冷地：+20～+30（ノビエ2.5Lまで）。 〔但し、寒冷地以北はイネ5L期以降〕			
			温暖地東部の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒメホタルイ・ヒルムシロ。 〔但し、ヒルムシロは普通期のみ。〕	温暖地以西：+20～+25（ノビエ2.5Lまで） ホタルイ；発生始～2L。 ヘラオモダカ・ウリカワ；発生始～4L。			
			温暖地西部以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ。 〔但し、ホタルイは暖地の早期のみ。〕	ヒメホタルイ；草丈5～10cm。 ヒルムシロ；発生盛～増殖初期。 オモダカ；3Lまで。			
Ⅱ 6 3 ヒルムシロ対象	5) SL-49粒		<Ⅱ-2-13参照>					
Ⅱ 6 4 セリ対象	1) BAS-3510 水和		<Ⅱ-5-3参照>					
Ⅱ 6 5 シズイ対象	1) B-3015 S・BAS粒	茎葉処理	寒冷地。	シズイ。	シズイ；草丈20～25cm（5～7L）。	g/a 300～ 400	壤土～ 埴土 （2cm/日以下）。	
	3) MCP・BAS粒	茎葉処理	寒冷地。	シズイ。	+40～+45。 シズイ；草丈30～40cm（7～8L）。	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 （1.5cm/日以下）。	1) 浅水処理で使用する。
	4) TH-63粒	茎葉処理	寒冷地。	シズイ。	シズイ；草丈20～25cm（5～7L）。	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 （2cm/日以下）。	
	5) BAS-3510 水和	茎葉処理	寒冷地。	シズイ。	シズイ；草丈20～30cm（5～8L）。	g/a 40～60	全土壌。	1) 落水処理で使用する。

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ シズイ 6 対 5 象	6) SMX粒	茎葉処理	寒冷地.	シズイ.	シズイ; 草丈20~25cm(5~7L).	g/a 300	砂壤土~ 埴土 (2cm/ 日以下).	
Ⅲ 1 湛 水 直 播	1) HW-52 粒	土壌処理	温暖地以西.	ノビエ.	+3~ノビエ2.5Lまで. (但し, 温暖地東部)は2Lまで.	g/a 300~ 400 〔但し, 温暖地 東部は 300の み.〕	埴土~ 埴土 (1.5cm/ 日).	1) 広葉雑草に有効な除草剤との組み合わせで使用する.
	3) SL-49 粒	土壌処理	寒冷地. 温暖地以西.	一年生雑草・マツパイ・ホタルイ. 一年生雑草・マツパイ・ホタルイ・ウリカワ. (但し, ホタルイは)温暖地東部を除く.	-3~+7(ノビエ発生始まで). ホタルイ; 発生前. +0~+3. (但し, 温暖地西部)は+0~+7(ノビエ1Lまで). ホタルイ; 発生始まで. ウリカワ; 2Lまで.	g/a 300~ 400 g/a 300	埴土~ 埴土 (2cm/ 日).	
Ⅳ 畦 畔 雑 草	3) MW-801 液	茎葉処理	全域.	全草種.	雑草生育初期~中期; 草丈10~30cm.	ml/a 50~ 100	全土壌.	1) ノリ面散布はさける. 2) 流入・飛散による水稻への被害に注意する.
	4) NHS- 60 水溶	茎葉処理	寒冷地, 温暖地.	全草種.	雑草生育期; 草丈25~30cm.	g/a 1000~ 1500	埴土~ 埴壤土.	1) ノリ面散布はさける. 2) 流入・飛散による水稻への被害に注意する.
V 耕 起 前	1) NW-801 液	茎葉処理	寒冷地以西.	一年生雑草・キシウスズメノヒエ. (但し, キシュウスズメノヒエは暖地のみ.)	一年生雑草; 耕起前30~15日. キシウスズメノヒエ 耕起前30~25日.	ml/a 一年生雑草; 50~100. キシウスズメノヒエ; 100.	砂壤土~ 埴土	1) 周辺の作物に飛散しないように注意する.
Ⅳ 休 耕 田	1) グリホサート液	茎葉処理	寒冷地以西.	一年生雑草・イネ科多年生雑草.	雑草生育初期.	ml/g 一年生雑草; 25~	全土壌.	1) 稀釈水量はできるだけ少なく, 茎葉に付着する

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VI 休耕田(つづき)	1) グリホサート液 (つづき)	茎葉処理				50. 多年生雑草; 75~ 100.		ように散布する。 2) 周辺の作物に飛散しないように注意する。
VII 体系是正	1) CG-S W粒	土壌処理	全域の普通期・温暖地 東部の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ヒルムシロは寒地と暖地のみ。〕	-3, +1~ノビエ2Lまで。 〔但し、寒地は-3, +1~+10(ノビエ1.5Lまで)。〕 ホタルイ・ミズガヤツリ; 2Lまで。 ウリカワ・ヘラオモダカ; 3Lまで。 ヒルムシロ; 発生期まで。	g/a 300~ 400	砂壤土~ 埴土 (2cm/日以内)。	1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 2) 砂壤土で、著しい高温条件の時はクロロシスの発生が著しいので注意する。
			暖地の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ。	+1~+7(ノビエ1Lまで)。	g/a 300		
	2) CG-S W粒	土壌処理	寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ。	+1~+10(ノビエ1.5Lまで)。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ; 発生始まで。 ウリカワ; 2Lまで。	g/a 300~ 400	砂壤土~ 埴土 (2cm/日以下)。	1) CG-SW粒剤に準ずる。
	3) MM-3 粒	土壌処理	全域の普通期、温暖地 東部の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ。 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ミズガヤツリは寒地を除く。〕	+3~+10(ノビエ1.5Lまで)。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 発生始~2Lまで。	g/a 300~ 400	埴土~ 埴土 (1.5cm/日以下)。	1) ブタクロール粒剤に準ずる。
	4) MS-358粒	土壌処理	全域の普通期、温暖地 東部の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ヒルムシロは寒地と暖地のみ。〕	寒地、寒冷地: +1~+10(ノビエ1.5Lまで)。 温暖地東部: +3~+13(ノビエ2Lまで)。 温暖地西部以西: +1~+10(ノビエ2Lまで)。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ; 2Lまで。	g/a 300~ 400 〔但し、400は寒地のみ。〕	砂壤土~ 埴土 (2cm/日以下)。 〔但し、寒地の400g/a処理は砂壤土を除く。〕	1) ブタクロール粒剤に準ずる。 2) 泥炭質土壌ではウリカワに対する効果が低下することがある。 3) 砂壤土で、著しい高温条件の時はクロロシスの発生が著しいので注意する。

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ 体系是正（つづき）	4) MS - 358 粒 (つづき)	土壌処理			ウリカワ；3 L まで。 ヒルムシロ；発生期まで。			
			暖地の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ。	+1～+7 (ノビエ 1 L まで)。			
	5) MS - 356 粒	土壌処理	寒地・寒冷地北部。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地北部のみ。〕	+1～+10 (ノビエ 1.5 L まで)。 ホタルイ・ヘラオモダカ；2 L まで (寒冷地は発生始まで)。 ウリカワ；3 L まで。 ヒルムシロ；発生期。	g/a 300～400	砂壤土～ 埴土 (2 cm / 日以下)。 〔但し、寒地の 400 g/a 処理と寒冷地北部は埴土～埴土。〕	1) ブタクロールおよびピラゾレート粒剤に準ずる。
	6) MS - 256 粒	土壌処理	寒冷地以西の早期、普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・オモダカ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、オモダカは温暖地東部のみ、ヘラオモダカは寒冷地と温暖地東部のみ、ヒルムシロは温暖地西部以西の早期を除く。〕	+1～+10 (ノビエ 1.5 L まで)。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・オモダカ・ミズガヤツリ；発生始まで (温暖地東部のヘラオモダカは 2 L まで、暖地のウリカワは発生前～2 L)。 ヒルムシロ；発生期。	g/a 300～400	砂壤土～ 埴土 (2 cm / 日以下)。 〔但し、寒冷地は砂壤土を除く。暖地の早期は砂壤土～埴土 (1 cm / 以下)〕	1) ブタクロールおよびピラゾレート粒剤に準ずる。
	7) MT - C G 粒	土壌処理	全域の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ。 〔但し、ミズガヤツリは温暖地以西のみ。〕	+3～+10 (ノビエ 1.5 L まで)。 〔但し、温暖地西部以西はノビエ 2 L まで。〕 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ；発生始まで。	g/a 300～400	埴土～ 埴土 (2 cm / 日以下)。	
	8) NTN - 804 粒	土壌処理	寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ。	+7～+15 (ノビエ 2 L まで)。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ；3 L まで。	g/a 300	砂壤土～ 埴土 (2 cm / 日以下)。	

区分	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VII 体系是正 (つづき)	9) SB-77 粒	土壌処理	全域の普通期、温暖地の <u>早期</u> 。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ホタルイとミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒地以北のみ、ヒルムシロは寒地と温暖地西部以西の普通期のみ。〕	+3～+10 (ノビエ2Lまで)。 〔但し、寒地はノビエ1.5Lまで、温暖地西部の早期は+3～+12。〕 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ；2Lまで。 ヒルムシロ；発生期まで。	g/a 300～ 400 〔但し、400は寒地と温暖地西部の早期のみ。〕	砂壤土～ 埴土 (2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部の早期は埴土～埴土(1cm/日以下)〕	1) 泥炭質土壌ではウリカワに対する効果が低下することがある。 2) 砂壤土で、著しい高温条件の時はクロロシスの発生が著しいので注意する。
	10) SL-493 粒	土壌処理	全域の <u>早期</u> ・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ヘラオモダカは寒地以北のみ、ミズガヤツリは温暖地以西のみ、ヒルムシロは寒地と温暖地西部以西の普通期のみ。〕	+1～+10 (ノビエ2Lまで)。 〔但し、寒地、寒冷地、暖地の早期はノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ；2Lまで (暖地早期のホタルイは1Lまで)。 ウリカワ；3Lまで。 ヒルムシロ；発生期。	g/a 300～ 400 〔但し、砂壤土は300のみ。〕	砂壤土～ 埴土 (2cm/日以下)。 〔但し、暖地の早期は1cm/日以下、温暖地西部の早期は埴土～埴土(1cm/日以下)〕	
	11) SL-494 粒	茎葉・土壌処理	全域の <u>早期</u> ・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ヘラオモダカは寒地以北のみ、ミズガヤツリは寒地を除く、ヒルムシロは寒地と温暖地西部以西の普通期のみ。〕	+7 +12 (ノビエ2.5Lまで)。 〔但し、寒地はノビエ1.5Lまで、寒冷地と暖地の早期はノビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ；2Lまで (暖地早期のホタルイとミズガヤツリは発生始まで)。 ウリカワ；4Lまで。 ヒルムシロ；発生期。	g/a 300～ 400 〔但し、砂壤土は300のみ。〕	砂壤土～ 埴土 (2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部の早期は埴土～埴土(1cm/日以下)、暖地の早期は埴土～埴土(1cm/日以下)〕	1) ミズガヤツリに対し、遅い処理では400 g/a 散布する。
	13) TH-63 粒	茎葉処理・ 土壌	全域の <u>早期</u> ・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウ	寒地：+7～ノビエ2Lまで。 寒冷地：+8～ノ	g/a 300	埴土～ 埴土 (2cm/	1) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。

区分	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VII 体系是正(つづき)	13) TH-63 粒 (つづき)	茎葉・土壌処理		リカワ・ミズガヤツリ。 (但し、ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ミズガヤツリは寒地を除く。)	ビエ2.5Lまで、 温暖地以西：+8 ～ノビエ3Lまで。 ホタルイ；発生始 ～5L。 ヘラオモダカ；発 生盛～4L。 ウリカワ；発生盛 ～5L。 ミズガヤツリ；発 生盛～6L。		日以下。	2) 多年生雑草を対象とする場合には浅水処理が望ましい。

新 登 録 除 草 剤 一 覧

農林水産省農蚕園芸局植物防疫課

昭和57年6月1日～58年2月28日

種類名	商品名	有効成分の種類 および含有率	剤 型	適用場所	作 物 名	適 用 雑草名	使用時期	10a 当り 使 用 量	使用方法	登録会社
カルブチ レート粒 剤	タンデッ クス粒剤	3-(3,3-ジ メチルウレイド) フェニルター シャリブチルカ ルバマート ……………4.0%	粒 剤	造 林 地 (下蒔り)	ひ の き	落葉雑か ん木1年 生雑草お よび多年 生雑草。	新葉展開 前～展開 初期、雑 かん木 (3月～ 4月)	12 kg	全面土壌 散布	日本チバガ イギー(株)、 昭和電工(株)。
						ササ	5～7月			
メトラク ロール・ CAT水 和剤	ゲザトッ プD水和 剤	2-クロロ-2'- エチル-N- (2-メトキシ -1-メチル) -6'-メチルア セトアニリド ……………30.0% 2-クロロ-4, 6-ビス(エチ ルアミノ)-S -トリアジン ……………15.0%	水 和 剤		日 本 芝 〔こうら いしば〕	畑地一年 生雑草	雑草発生 前。	400～ 600 g 〔200～ 300 l 使用〕	全面土壌 散布。	日本チバガ イギー(株)、 日本農業(株)。
ノルフル ラゾン粒 剤	ゾリアル 粒剤	4-クロロ-5 -メチルアミノ -2-〔3- (トリフルオロ	粒 剤		桑	畑地一年 生雑草	雑草発生 前	6～8 kg	全面土壌 散布	日本曹達(株)、 サンド薬品 (株)。

種類名	商品名	有効成分の種類 および含有率	剤 型	適用場所	作物名	適 用 雑草名	使用時期	10a 当り 使 用 量	使用方法	登録会社
		メチル)フェニ ル]-3(2H) -ピリダジン 2.5 %								
ノルフル ラゾン水 和 剤	ゾリアル 水和剤	4-クロロ-5 -メチルアミノ -2-[3- (トリフルオロ メチル)フェニ ル]-3(2H) -ピリダジノン 80.0 %	水 和 剤		桑	畑地一年 生雑草。	雑草発生 前。	150 ~ 200 g (100 ~ 200 l 使用)	全面土壌 散布。	日本曹達(株)、 サンド薬品 (株)。

新 登 録 生 育 調 節 剤 一 覧

農林水産省農蚕園芸局植物防疫課

昭和57年6月11日～58年2月28日

種類名	商品名	有効成分の種類 および含有率	剤 型	作物名	使用目的	使用時期	希釈倍数	1株当り 散布液量	使用方法	登録会社
デシルア ルコール 乳 剤	コンタク ト	デシルアルコール 78.0 %	乳 剤	たばこ	腋芽抑制	芯 止 後	30倍	30ml	散 布	大塚化学薬 品(株)
ニコチン 酸アミド 粉 剤	カケンタ ミン粉剤	ニコチン酸アミ ド 20.0 %	粉 剤	稲 (箱育苗)	根の生育 促進, 移 植時の発 根および 活着促進	播 種 前	使用量 育苗箱(30×60×3 cm; 使用土壌約5l) 1箱当り5～10g		本剤の所 定量を育 苗箱の土 壌と均一 に混和す る	科研化学(株)

編 集 後 記

地球の火山活動が活発となり、噴火した火山灰が地球を覆い、今年も冷害年となるのではないかという、暗いニュースが流れている。最近の農業技術で、これらの冷害を克服することはできるであろうが、国民の食糧を外国に依存する現状から、一刻も早く脱却しなければならぬ。そのためには、陽光に頼ることのない農業技術の確立が緊急の課題であり、研究者はこの難問解決のために真剣に取り組まねばならぬ。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)832-4188(代)

昭和58年3月発行

植 調 第16巻 第12号 ￥300(送料170)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢 長 人
発行人 植 調 編 集 印 刷 事 務 所 広 田 伸 七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所
電話 東京(03)833-1821(番)(代)

適期防除で
確かな効果—!

低温でも安心して使え、周辺作物にも安全な

アビロサン®粒剤

- 1年生雑草及び、ヒルムシロ・ヘラオモダカ・ホタルイ・ミヅガヤツリを経済的に防除。

水田雑草の総合防除に

ワイダー®粒剤

- ヒエはもとより、ウリカワ・クログワイ・ミヅガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・ヒルムシロなど多くの多年生雑草に高い効果。



アビロサン・ワイダー普及会

武田薬品・日本チバガイギー
石原産業・BASFジャパン

らくらく散布で多年草も防除



容器のまま代かき時に

散布できる水田除草剤

デルカット® 乳剤

(オキサジアゾン・ブタクロール除草剤)

★安全で省力的な機械散布もできます。

——— デルカット普及会 ———

日産化学・北興化学・昭和ローディア化学・日本モンサント
〈事務局〉日産化学工業(株)農業事業部内東京都千代田区神田錦町3-7-1

ホクコーの水田除草剤

● 多年生雑草にもよく効く新除草剤

デルカット[®] 乳剤

● これからの水田初期除草剤!!

モーダウン 粒剤

● ヒエに抜群の効果。ホタルイ、ミズガヤツリにも卓効!

マーシェット 粒剤5

● 長い効きめで省力除草が可能

グサカリン 粒剤25

初期除草剤との体系で **グラキール** 粒剤1.5
セリにも効果のある水田中期除草剤 粒剤2.5



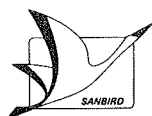
取扱い
農協・経済連・全農



北興化学工業株式会社
〒103 東京都中央区日本橋本石町4-2
支店: 札幌・東京・名古屋・大阪・福岡

お近くの農協でお求めください

* 稲に安全・多年生雑草にも効く初期除草剤



サンバード[®] 粒剤

上手な使い方

- 田植がすんだら、すぐまきましょう。
- 水はしっかり保ちましょう。
- かけ流しはやめましょう。

安定した健苗育成に……………タチガレン 液剤 粉剤

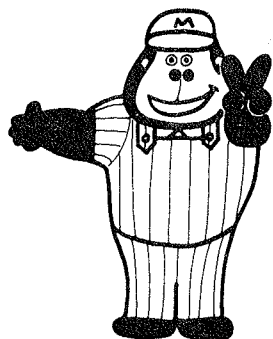


三共株式会社

農業営業部 東京都中央区銀座2-7-12 北海道三共株式会社
支店 東京・仙台・名古屋・大阪・広島・高松 九州三共株式会社

これからの水田初期除草剤!!

モーダウン粒剤



特 長

- 殺草力が極めて高く、長い(20~30日間)残効性を示します。
- ノビエ、その他1年生雑草の他、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカにも卓効を示します。
- 温度や土壌の種類による効果の変動が少なく常に安定した効果を発揮します。
- 殺虫剤・殺菌剤との近接散布による薬害の心配がありません。
- 人畜毒性が低いので安心して使用できます。



農協・経済連・全農

あなたの農協でお求め下さい。



モーダウン普及会

北興化学・八洲化学・全農

事務局：ローヌ・プーランジャパン

〒107 東京都港区赤坂1-9-20 第16興和ビル別館

ひときわ冴えた効きめが自慢



日本化薬株式会社

〒100 東京都千代田区丸の内1-2-1

な〜んと、欲張った

◇ 水田の1年生、多年生雑草同時防除剤

® バサグランSM 粒剤

®=西ドイツ・BASF社登録商標

- ◎初期除草剤との体系使用で1年生雑草およびウリカワ、ホタルイ、ミズガヤツリなどの多年生雑草を同時に防除する。
- ◎湛水散布で高い効果。
- ◎散布適期幅が広く、長期間雑草をおさえる。
- ◎イネに対して安全。

◇ 水田用中期除草剤

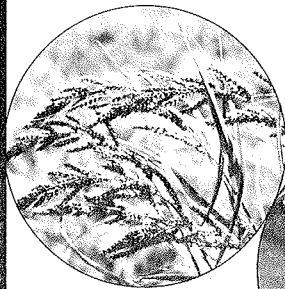
パウナックスM 粒剤

- ◎初期除草剤との体系使用で1年生雑草および多年生雑草の同時防除に高い効果を示す。

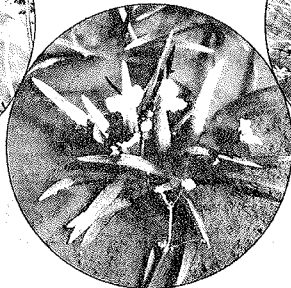
水田初期処理用除草剤

オーザ[®]粒剤

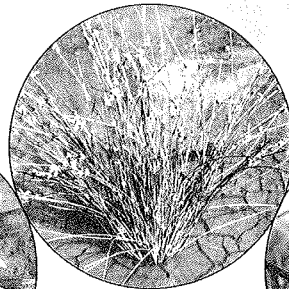
®三井東圧化学(株)・日本モンサント(株)共有登録商標



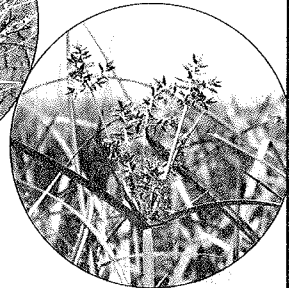
ノビエ



ウリカワ



ホタルイ



ミズガヤツリ

ノビエから多年生雑草まで

総合除草

オーザ粒剤は総合除草の新しい水田初期処理用除草剤。

ノビエ、カヤツリグサ、およびコナギなどの
各種一年生雑草から、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワなど
防除困難な多年生雑草まで
長期間安定した効果を現わすので省力的です。

●

○使用時期：田植後5日から7日が最適です。

○使用量：10アール当り3kg(製品1袋)の散布で十分な効果

オーザ普及会

日産化学工業株式会社

八洲化学工業株式会社

三井東圧農業株式会社

日本モンサント株式会社

(事務局)

三井東圧化学株式会社
東京都千代田区霞が関3-2-5

確かさで選ばれる 初期除草剤マーシェット。

ヒエに抜群。マーシェット粒剤5はホタルイ・ミズガヤツリも制す。

水田に最初によく除草剤として不動の人気を得たマーシェット粒剤5。毎年、皆さまに選ばれるのは①ヒエはもちろんホタルイ、ミズガヤツリ、マツバイなどを初期から確実に防ぎ②効めが30日以上と長く次の中期除草剤の散布に余裕ができ、③水田雑草の体系防除が計画通りにゆくからです。マーシェット粒剤5で雑草を防除し豊かな収穫をあげてください。

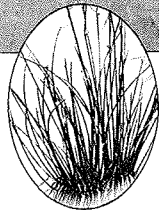
マーシェット粒剤5

中期除草剤

豊かな実り



ヒエ



ホタルイ



ミズガヤツリ



マツバイ



水田に、まっ先によく

マーシェット粒剤 5

除草剤

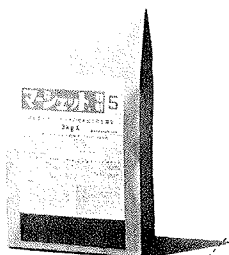
®米国モンサント社登録商標

マーシェット普及会事務局

日本モンサント株式会社 農業事業部

〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル Tel.(03)287-1251

●詳しい資料をお求めの方は右の請求券をそえて、上記事務局までお送りください。

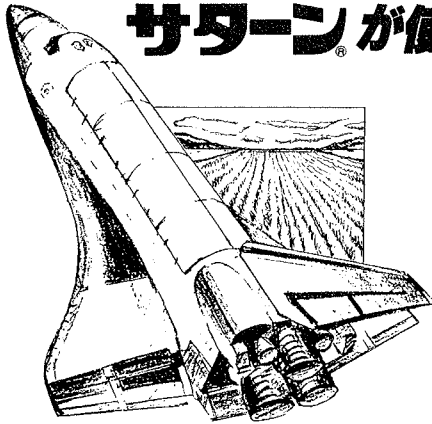


資料請求券
M-粒剤

水田除草剤

サターン®が使いやすくなりました。

サターン資料
請求券
植調
83/2



安全性・経済性・高い信頼

クミリードSM粒剤
サターンS粒剤
サターンM粒剤

科学の粋を農業へ

新発売

グラノック粒剤
シルベノン粒剤

畑作除草剤サターン・バアロ粒剤・乳剤



農協・経済連・全農



自然に学び 自然を守る

クミアイ化学

- サターン剤(ベンチオカーブ)は、水田除草剤として使用されわが国の除草労力の節減に大きな効果をあげていますが強還元田など特殊な土壌環境条件下で時に、水稻の生育障害がみられる場合があります。
- この対策について種々試験検討が行われてきましたが、処方改良したベンチオカーブ剤は、水稻に対し高い安全性が確認されました。
- これにともない水田除草剤サターン剤は、安心して使えるよう改良されています。

多年生・一年生雑草の同時防除に

マメット®SM粒剤

マメット粒剤・マメットSM粒剤・オードラムM粒剤
を安全にご使用いただくために

日頃は、マメット粒剤、マメットSM粒剤、オードラムM粒剤をご愛用いただきまして厚くお礼申し上げます。

ご承知の通り、上記モリネート剤については養殖鯉に対する事故防止のため行政機関、指導機関、漁業関係者など関係諸団体のご協力を得まして自主規制に対する諸対策を実施しております。お陰様で、皆様にはこの主旨をご理解いただき、昭和55年度は本剤に起因すると思われる魚類事故は皆無になりました。ここに関係の皆様へ厚くお礼申し上げますと共に、今後とも事故防止に一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、最近水田に散布された除草剤が隣接の野菜畑（特にウリ類など）に影響を及ぼすという問題が発生しておりますが、モリネート剤についても同様のおそれがあるので野菜畑に隣接した水田でのマメット粒剤、マメットSM粒剤、オードラムM粒剤の使用はさけるよう併せてご指導いただくようお願い申し上げます。

モリネート普及会